

平成10年度通常総会 「秩父宮記念山岳賞」を創設



山岳会の運営は順調……と挨拶する斎藤会長



1998年(平成10年)
7月号(No.638)

社団法人 日本山岳会

The Japanese Alpine Club

定価一部 150円

目次

平成10年度通常総会	1
平成9年度事業報告書	4
収支計算書	5
正味財産増減計算書	5
貸借対照表	6
財産目録	6
平成10年度事業計画案	8
平成10年度収支予算書案	9
海外の山	11
東西南北	
若い会員がなぜ増えないかを考える	10
JACを考える	12
詩・こぶし	13
トリノ・豊橋・豊科で日本の山岳写真展	13
同好会報告	
三水会現地集会・西上州塚山	14
ジャック93会・甲州高尾山	14
支部だより・岐阜支部	15
JAKネパール・トレッキング	16
図書紹介	18
『ROCKY MOUNTAINS』『能海寛遺稿』	
カバディ氏インドの地図寄贈	18
ネパール国際山岳博物館募金	19
書籍受入報告	19
新人(復活)会員	20
会務報告	21
INFORMATION	23

▶日本山岳会事務取扱時間	
月・火・木・土曜日	10～20時
水・金曜日	13～20時
▶図書室開室時間	
日曜・祭日・月曜日を除く毎日	13～20時
▶ルーム夏休み	8月17日～22日

平成10年度通常総会が五月十六日、東京・千代田区三崎町の東京グリーンホテル水道橋で開かれた。

通常総会には会員百五十四名が出席、議案①平成九年度事業報告および収支決算、財産目録承認の件。②平成10年度事業計画案および収支予算案承認の件。③平成10年度除籍対象者の件。④秩父宮記念賞創設の件。⑤その他―について慎重審議し、いずれも原案どおり可決、承認した。(事業報告等の内容は別掲)

「山岳会の運営は順調に推移」と会長挨拶

議案審議に先立ち、斎藤淳生会長は、次のように挨拶した。

日本山岳会の運営は順調に推移している。昨年の最大の出来事は、やはり広島支部の誕生だったと思う。長らく山陽道での支部誕生が待たれ

ていた。全国支部集会は越後支部にお願いし、盛大に行うことができた。海外登山も活発だ。

今年は、秩父宮記念山岳賞が創設される。五月の理事会でようやく大綱を決定することができた。

六月から中高年対策について活動を開始する。というのも昨年は二百七十名が新しく会員になられた。うち百二十名が支部に入られたが、平均年齢は五十六・五十七歳だ。日本山岳会の現在の平均年齢とちょうど同じである。このことを考えると、中高年層に登山技術などの指導をしていかなければならないと思う。集會委員会が中心になって動いている。

事業報告・収支決算 山研修繕費を積み立て

この日の総会には、二千四百九十名から委任状が提出された。三月末

現在の会員数は五千七百三十七名であり、出席者と委任状を合わせると、会員の三分の一の千九百十三名を上回った。議事録署名人には宮崎峻一、藤田礼子両会員が指名された。

平成九年度の事業報告は絹川祥夫総務担当常務理事、収支決算および財産目録は吉永英明財務担当常務理事が詳細に説明した。

説明によると、国際交流が活発で、八月にはネパール王国観光大臣、十二月にはカナダ山岳会、一月には西藏登山協会が来日、さらに二月には中国山岳協会首席を迎えた。国内では広島支部が誕生、また越後支部では全国支部懇談会を開催、松代町から盛大な歓迎を受けた。

青年部がダウラギリなど八〇〇メートル級の山をバリエーションルートから登攀、学生部が雪崩の研究に取り組むなど、若い会員の活躍も目立った。マッキンリーでの気象観測は八年目となり、さらに大きな成果を上げつつある。

収支決算では、収入が予算額八〇一四万円に対し決算額八五八九万円となり、予算を五七五万円、七・二パーセント上回った。大部分を占める入会金・会費の納入がよく、会費納入率は九五パーセントを超えた。とくに支部会員の納入率は九八パーセントと高かった。終身会費収入は

低金利で運用益が期待できないため、あまりお勧めできないという考えもあるが、一三三万円あった。事業収入も、会員名簿作成に伴う広告収入があったことのほか、いわゆるJACグッズや刊行物等の頒布収入があつて予算を上回ることができた。雑収入は利息のほか山岳保険の事務手数料など。なお、故大屋梯二常務理事のご遺族から香典返しとして三〇万円の寄付があつた。

支出は予算額七九八八万円に対し決算額は八一〇四万円と予算を一一六万円上回ったが、超過額は一・四パーセントにとどめることができた。事業費の主な内容は「山岳」や会報「山」などの出版費、また支部に対する助成金である支部関係費、JACグッズの仕入れなどのその他の事業費など。出版費は出版物の内容を変えらることなく経費を削減することができた。ルームの賃借料などの運営管理費はほぼ予算どおりだった。長期計画積立金としては従来、百周年記念事業の積立金として毎年三〇〇万円を積み立ててきたが、これに加えて高地・山岳研究所の改修費として毎年一〇〇万円を上積みして積み立てることにした。

これらの結果、収支差額は四八四万円の黒字となり、前年度の繰越額を加え次年度に一六三三万円を繰り

越すことができた。平成九年度末の正味財産額は前年度比九六九万円増加し三億八四八六万円となった。

これらに対し、石橋正美・神崎忠男両監事から、収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表および財産目録を監査し、正確妥当なことを認める報告があつた。

平成十年度計画・予算 中・高年対策を積極推進

平成十年度事業計画(案)および収支予算(案)についても、絹川・吉永両常務理事が詳細に説明した。

主な事業計画は、①中高年会員対策としてシンポジウム、実践登山を実施。集会委員会が中心となり、科学、医療委員会の連携を得て六月から具体的な活動を開始する。②九月末にワルター・ボナッティ氏を招き講演会、写真展を開催。③学生部が十月から十二月にかけて学生だけでブータンの未知の地域に挑戦。④マッキンリーの気象観測を継続実施。⑤十一月にネパール・トレッキングを企画。⑥インターネットにホームページを引き続き開設。⑦新たな事業として、秩父宮記念山岳賞を十二月の年次晩餐会に発表——など。

これらに対する予算は、収支均衡を貫いて編成。収入は前年度予算額一・八パーセント増の八一五八万円

とした。新入会員は二百五十名の予定。前年度実績は二百七十名だった。通常会費収入は六五五〇万円と前年度比二・六パーセント増。山研利用料は、さまざまなイベントを予定しているのので、これを織り込み前年比一二・七パーセント増と見込んだ。支出は同一・九パーセント増の八一三六万円の予定。出版費の減少は経費削減の努力に基づくもので、内容を変えるものではない。海外交流を重視する方針を受けてその他事業費は若干増。

平成十年度除籍対象者は五十五名である。前年の七十二名より減ったが、これに関し、知っている人に声をかけ会費を納入し留まるよう勧めてほしいとの要請があつた。

報告事項

一、秩父宮記念山岳賞の創設

報告事項では、竹内哲夫副会長から秩父宮記念山岳賞の創設について次のような報告があつた。

平成八年にご遺族から一千万円をいただいた。その後、どう利用していくのか、慎重に議論してきた。小田稔、川喜田二郎、織内信彦、渡辺兵力、山口峯生、村木潤次郎の各氏に集まっていたが、数回にわたって意見を聞いた結果、五月の理事会でようやく大綱を決定することがで



挨拶するネパールのシャルマ参事官

きた。(大綱は会報「山」五月号一〇ページに掲載)。

名称は日本山岳会の賞であることと秩父宮家との関係から「山岳賞」とした。対象は優れた登山活動のほか、人文、社会、自然諸科学、また芸術作品と幅広いものとした。運営委員会が運営していくことになる。同委員会には審査委員会と事務局を置く。審査委員会については、日本山岳会の委員会が積極的に関与するのが望ましいということから高所登山、自然保護、医療、科学研究、図書、資料と総務委員会の担当理事が委員になることが考えられよう。副賞については、必ずしも金額の多いことがいいことではなく、名誉が大切だという考えもあり、そのあたりを尊重して決めていきたい。

これに関連し、村木前会長は「川喜田さんが、伝統と風土にふさわしい賞にしたい、と言っておられた。日本山岳会は創立九十年を越えて伝

統のほうはあるが、風土はいいのか悪いのか。どういう風土が形成されつつあるのか、興味あるところだ。そういう意味でこの賞は値打ちを問われる」と賞の創設に参画した所感を披露された。

二、ネパール山岳博物館建設募金
ネパール山岳博物館建設募金について、伊丹紹泰海外連絡担当常務理事が報告。

山岳六団体で四千万円、そのうち日本山岳会が二千万円を分担、というのが目標だ。年内に達成したい。すでに五百名を超える会員から協力いただいている。北海道から九州まで、募金の趣旨が隅々まで浸透している感じだ。五千七百名の会員の中で、少なくとも千五百名は協力いただきたいと思っている。

三、カンチエンジュンガ登山
青年部のカンチエンジュンガ登山について宇田川芳伸青年部担当理事が報告。

つい先ほどまで大学にいて連絡を待っていたのだが、登頂の連絡はまらない。一週間ほど前、「七九〇〇メートルの第四キャンプに荷揚げし、十三〜十五日にアタックの予定」というファックスが入ったまま。みんなが無事にアタックして下山してほしいと思うばかり。吉報は、もうしばらく待ってほしい。

(後になって、悲報に接したが、この日は成功を疑うことなく、斎藤会長も「今日、登頂の知らせを披露できると思っているのだが……」と挨拶していた)

四、ネパール・トレッキング

ネパール・トレッキングについて吉永常務理事が報告。

昨年八月にネパール王国観光大臣が表敬訪問され「ネパール観光年」への招待を受けた。五年前に会員にアンケートしたときはトレッキングの希望が多かった。そうしたことがあって企画した。日本山岳会は、あくまで企画のみである。旅行会社が主催する。ネパール登山協会との交流、ポカラに建設中のネパール山岳博物館の現状視察、また自然保護委員会がカトマンズ近くで推進しているシャクナゲ植林の視察あるいは記念植樹などを計画している。

質疑応答

平成九年度事業報告・収支決算についての審議の際に、次のような質疑応答があった。

石田稔郎会員 委員会委員の任期を二期四年とするようになったはずだが、どうなっているのか。

小倉茂暉副会長 九十周年のときに委員会委員の任期も理事と同じように一期二年、二期四年を目安にして

いいのではないかと提案し、委員会担当理事に納得していただいたのだが、その際に原則としてということとで、委員会によってはそう簡単には代われないところもあるだろうという含みを持たせたというのが実情だ。現実には、九十周年のときに決めたもので、それから四年たっていないので、もう少し見守っていただきたい。石田会員 もう一つ。昨年の年次晚餐会についてこれはお願い。会計担当から費用が少なく済んだというような報告があったが、料金が少なかったのではないか。今年はそのようなことのないようにお願いしたい。

小倉副会長 けちったという認識はない。広島支部から支部誕生ということで四斗樽をいただいたことなどから、全体としてホテルに支払う代金が少なくなったということだ。ご理解たまわりたい。

懇親会

総会終了の後は、同所で懇親会。渡辺兵力名誉会員の音頭で乾杯の後和やかな懇談に移った。会場には駐日ネパール大使館のムクンド・P・シャルマ参事官が見え、「ポカラに建設している山岳博物館に対し大変なご協力をいただき厚く感謝します」との挨拶があった。

(写真・村井葵 文・高橋重之)

(社)日本山岳会平成9年度事業報告書

9. 4. 1~10. 3. 31

- 12月6日 支部長会議(総務) 新高輪プリンスホテル
 12月6日 年次晩餐会(総務) 新高輪プリンスホテル
 12月7日 医療委員会研究集会(医療) 東京
 12月7日 年次晩餐会記念山行(集会) 扇山
 12月8日 西藏登山協会訪日団を囲む会(高所) 東京
 12月10日 白神現地調査(自然保護) 青森
 12月18日 雪崩研究会(学生) 本会
 1月15~17日 スキー集会(集会) 磐梯沼尻
 1月17~18日 雪崩ピーコン講習会(学生) 榑池
 1月17日 青年部OB・現役委員懇談会(青年) 本会
 1月31~2月2日 アイスクライミング研修会(遭難対策、指導、青年、学生) ハヶ岳
 2月17日 第29回山岳図書を語る夕(図書) 本会
 2月18日 中国登山協会首席を囲む会(海外) 私学会館
 2月19日 日本の分水嶺について談話会(科学) 本会
 2月20日 ダウラギリ、マナスル(明治大学)報告会(青年、高所) 本会
 2月27日 カンチェンジュンガ登山隊計画検討会(高所) 本会
 2月28日 カンチェンジュンガ登山隊壮行会(青年) 東京
 2月21~22日 全国支部事務局担当者会議(総務) グリーンホテル
 3月5日 映画会、スイス(フィルムビデオ) 本会
 3月14日 春季新入会員オリエンテーション(総務) 本会
 3月21~22日 初中級山岳スキー研修会(指導) 北ハヶ岳
- (B) 研究会・講演会
 7月14日 講演会「日本山岳会をとりまく国内外の環境」(海外) 本会
 11月21日 講演会「ヒマラヤを語る」(青年、高所) 本会
 1月29日 講演会「東部カラコルム」(高所) 本会
- (C) シンポジウム
 6月6~8日 第17回日本登山医学シンポジウム(医療) 東京
 11月29日 山で役立つ天気の見方シンポジウム(科学) 東京
 11月22~23日 自然保護シンポジウム&コンサート(自然保護) 藤野町
2. 登山施設の運用、その他登山のための適切な事業
 * 上高地山岳研究所の運用、資料室開設(5~10月)
 * 受入れ資料保管
 * 各博物館、美術館との提携強化
 * 海外遠征の記録、会合、行事等の記録、フィルムのビデオテープ化による保存
3. 山岳遭難の予防とその対策に関する企画および指導
4. 自然保護活動の推進
 * 自然保護指導者の養成
 * 自然保護委員会による年間山の自然学講座
 * 自然保護委員会会報「木の芽草の芽」隔月刊行
5. 機関紙等の発行
 * 「山岳」第92年(1997)号の発行
 * 会報「山」第623~634号の発行
6. 国内および外国山岳団体との情報交換
 * 国内関係団体(日山協、都岳連、日本ネパール協会、日本ヒマラヤ協会、HAT-J、その他)との密接な連絡
 * 海外登山団体との機関紙の交換および情報誌の購入
7. 海外登山
 * 6月8日~7月7日 第8次マッキンリー気象観測機器設置登山隊(科学)
 * 8月21日~10月30日 ダウラギリI峰登山隊(青年)
8. その他目的を達成するために必要な事業
 * 新刊図書目録資料調達
 * 山岳図書の整備
 * その他

1. 登山の指導と奨励に必要な集会、研修会、講習会および展覧会の開催

(A) 集会

- 4月13日 サクラハイク(集会) 浅間嶺
 4月12~14日 中上級山岳スキー研修会(指導) 谷川岳
 4月20日 白神現地調査(自然保護) 白神山地
 4月26~5月12日 ネパール石楠花等植林事業(自然保護) ネパール・シバプリ
 5月10~11日 若葉会山行偵察(集会) 和賀岳
 5月11日 第4回古道を歩く(図書) 筑波山
 5月15日 第1回夏山気象入門(科学) 本会
 5月17日 支部長会議(総務) グリーンホテル
 5月17日 通常総会(総務) グリーンホテル
 5月17~21日 鳥海山イヌワシ現地調査(自然保護) 酒田・八幡・盛岡
 5月24~25日 若葉会山行(集会) 和賀岳
 5月29日 第2回夏山気象入門(科学) 本会
 6月5日 第3回夏山気象入門(科学) 本会
 6月8日 第51回ウエストン祭(信濃支部) 上高地
 6月12日 第4回夏山気象入門(科学) 本会
 6月14~15日 探索山行(科学) 磐梯山
 6月21~22日 小川山集会(学生) 小川山
 6月26日 海外登山研究会(学生) 本会
 7月8~10日 全国山岳遭難対策協議会(遭難対策) 仙台
 7月10日 海外登山研究会(学生) 本会
 7月15日 写真、ビデオ撮影会(フィルムビデオ) 高尾山
 7月22日 ダウラギリ隊壮行会(青年) 学習院大学
 8月1~25日 上高地インタープリテーション(自然保護) 上高地
 8月1日 ネパール王国観光大臣、在日大使と交流会 私学会館
 8月6日 名誉会員を囲む会(総務) 本会
 8月27日 第26回山岳史懇談会(図書) 昭和女子大
 8月30~31日 新任理事研修会(総務) 富士学園
 9月14~15日 キノコ山行偵察(集会) 会津
 9月20~21日 全国支部懇談会(総務) 松代町
 9月26~28日 谷川岳山行(青年) 谷川岳
 10月18~19日 キノコ山行(集会) 三岩岳・七ヶ岳
 10月18~19日 自然保護全国集会(自然保護) 鈴鹿市
 10月21日 鳥海山イヌワシ現地調査打合せ(自然保護) 本会
 10月24~26日 岩登り技術研修会(遭難対策、指導、青年、学生) 文部省登山研修所
 10月24日 第5回山を語る(図書) 本会
 10月24日 全国山岳博物館連絡会議(資料) 上高地
 10月25日 秋季新入会員オリエンテーション(総務) 本会
 11月15日 大学山岳部監督会議(学生) 東京
 11月15~16日 監督会議韓国訪日団と交流(学生) 松本楼
 11月16日 マラソン大会(学生) 皇居外苑
 11月23日 自然観察山行(自然保護) 藤野町
 11月25日 映画会、スキー、冬山(フィルムビデオ) 本会
 12月5日 カナダ山岳会訪日団歓迎会(海外) 東京
 12月6日 カナダ山岳会訪日団会食会(海外) 高輪プリンスホテル

旅費・交通費	1,400,000	1,607,281	△ 207,281
通信・運搬費	1,700,000	1,808,651	△ 108,651
保険料	330,000	301,570	28,430
修繕費	300,000	80,333	219,667
租税公課	600,000	493,680	106,320
光熱水道費	750,000	674,774	75,226
電話料	480,000	423,683	56,317
会議費	300,000	309,442	△ 9,442
什器備品費	500,000	109,796	390,204
振替手数料	600,000	617,240	△ 17,240
福利厚生費	260,000	199,802	60,198
事務所管理費	900,000	1,036,965	△ 136,965
その他管理費	2,700,000	2,451,644	248,356
負担金	135,000	190,000	△ 55,000
賃借料	3,360,000	3,360,000	0
雑費	800,000	1,149,217	△ 349,217
管理費計	32,465,000	31,252,714	1,212,286
3. 固定資産取得支出			
什器備品購入支出	0	0	0
固定資産取得支出	0	0	0
4. 特定預金支出			
秩父宮ご遺贈金支出	0	0	0
図書出版研究基金支出	0	40,000	△ 40,000
長期計画積立金支出	3,000,000	4,000,000	△ 1,000,000
海外登山基金支出	0	0	0
終身会費積立金支出	0	1,130,000	△ 1,130,000
退職給与引当預金支出	0	1,000,000	△ 1,000,000
特定預金支出	3,000,000	6,170,000	△ 3,170,000
5. 予備費			
予備費	1,500,000	0	1,500,000
当期支出合計(C)	79,883,000	81,043,888	△ 1,160,888
当期収支差額(A)-(C)	257,000	4,846,616	△ 4,589,616
次期繰越収支差額(B)-(C)	11,644,716	16,234,332	△ 4,589,616

収 支 計 算 書

平成9年4月1日から平成10年3月31日まで

科 目	予算額	決算額	差 異	備考
I. 収入の部				
1. 基本財産運用収入				
基本財産利息収入	80,000	73,800	6,200	
2. 会費・入会金収入				
入会金収入	5,000,000	5,200,000	△ 200,000	
復活会費収入	0	300,000	△ 300,000	
通常会費収入	63,840,000	64,951,000	△ 1,111,000	
終身会費収入	0	1,130,000	△ 1,130,000	
会費・入会金収入計	68,840,000	71,581,000	△ 2,741,000	
3. 事業収入				
広告料収入	3,300,000	3,371,206	△ 71,206	
印税収入	20,000	40,932	△ 20,932	
刊行物頒布収入	200,000	363,150	△ 163,150	
その他事業収入	3,500,000	4,673,500	△ 1,173,500	
山研使用料収入	3,000,000	3,193,310	△ 193,310	
事業収入計	10,020,000	11,642,098	△ 1,622,098	
4. 補助金等収入				
補助金収入	0	0	0	
5. 寄付金収入				
寄付金収入	0	300,000	△ 300,000	
募金収入	0	0	0	
寄付金収入計	0	300,000	△ 300,000	
6. 雑収入				
受取利息	700,000	827,533	△ 127,533	
雑収入	500,000	1,466,073	△ 966,073	
雑収入計	1,200,000	2,293,606	△ 1,093,606	
7. 特定預金取崩収入	0	0	0	
当期収入合計(A)	80,140,000	85,890,504	△ 5,750,504	
前期繰越収支差額	11,387,716	11,387,716	0	
収入合計(B)	91,527,716	97,278,220	△ 5,750,504	

正味財産増減計算書

平成9年3月31日～10年3月31日

科 目	金	額
I. 増加の部		
1. 資産増加額		
当期収支差額	4,846,616	
秩父宮家ご遺贈金	0	
図書出版研究基金	40,000	
長期計画積立金	4,000,000	
海外登山基金	0	
終身会費積立金	1,130,000	
退職給与引当預金	1,000,000	
増加額合計		11,016,616
II. 減少の部		
1. 資産減少額		
棚卸資産	325,241	
什器・備品	0	325,241
2. 負債増加額		
退職給与引当金繰入額	1,000,000	1,000,000
減少額合計		1,325,241
当期正味財産増加額		9,691,375
前期繰越正味財産額		375,170,088
期末正味財産合計額		384,861,463

科 目	予算額	決算額	差 異	備考
II. 支出の部				
1. 事業費				
出版費	11,500,000	10,745,941	754,059	
図書管理費	800,000	655,018	144,982	
調査研究費	2,808,000	3,034,021	△ 226,021	
指導費	1,160,000	1,340,865	△ 180,865	
支部関係費	10,900,000	11,154,887	△ 254,887	
海外諸関係費	250,000	265,334	△ 15,334	
山岳研究所運営費	3,600,000	3,817,985	△ 217,985	
海外登山補助費	1,000,000	1,000,000	0	
その他事業費	4,400,000	5,028,542	△ 628,542	
印刷・製本費	1,000,000	741,926	258,074	
通信運搬費	5,500,000	5,836,655	△ 336,655	
事業費計	42,918,000	43,621,174	△ 703,174	
2. 運営管理費				
給料・手当	13,500,000	13,222,800	277,200	
文具・消耗品費	250,000	231,619	18,381	
印刷・製本費	3,600,000	2,984,217	615,783	

2. 基本財産の増減額およびその残高は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期増加	当期減少	当期末残高
貸付信託(三井信託銀行)	2,380,000	0	0	2,380,000
〃 (日本信託銀行)	420,000	0	0	420,000
〃 (中央信託銀行)	5,200,000	0	0	5,200,000
合 計 (基本 金)	8,000,000	0	0	8,000,000

3. 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期末残高	備 考
現 金 預 金	8,292,046	12,856,162	
未 収 会 費	4,375,000	3,984,000	
合 計	12,667,046	16,840,162	
前 受 会 費	408,000	260,000	
預 り 金	871,330	345,830	
合 計	1,279,330	605,830	
次期繰越収支差額	11,387,716	16,234,332	

4. 固定資産の取得価格、減価償却累計額および当期末残高は、次のとおりである。

科 目	取 得 価 格	減価償却累計額	当期末残高
建 物	144,423,000	0	144,423,000
什 器 備 品	5,778,232	0	5,778,232
合 計	150,201,232	0	150,201,232

財 産 目 録

平成10年3月31日

科 目	金 額	
[1] 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金		
現金 現金手許有高	190,917	
振替貯金		
東京地方貯金局	619,557	
普通預金		
あさひ銀行市ヶ谷支店	698,218	
東京三菱銀行市ヶ谷支店	1,176,482	
中央信託銀行本店	107,814	
三井信託銀行新宿		
西口支店	45,516	
日本信託銀行本店	17,658	
定期預金		
あさひ銀行市ヶ谷支店	10,000,000	
未収会費 334名分	3,984,000	
棚卸資産 注1)	2,748,729	
流動資産合計		19,588,891
2. 固定資産		
(1)基本財産		
貸付信託		
三井信託銀行本店	2,380,000	
日本信託銀行本店	420,000	
中央信託銀行本店	5,200,000	
基本財産合計	8,000,000	
(2)その他固定資産 注2)		
土 地 57.91484㎡	46,297,170	
建 物 432.63㎡	144,423,000	
什器・備品	5,778,232	
敷 金	300,000	

貸 借 対 照 表

平成10年3月31日現在

科 目	金 額	
[1] 資産の部		
1. 流動資産		
現 金	190,917	
振 替 貯 金	619,557	
普 通 預 金	2,045,688	
定 期 預 金	10,000,000	
未 収 会 費	3,984,000	
棚 卸 資 産	2,748,729	
流動資産合計		19,588,891
2. 固定資産		
基本財産		
貸付信託	8,000,000	
基本財産合計	8,000,000	
その他固定資産		
土 地	46,297,170	
建 物	144,423,000	
什 器 備 品	5,778,232	
敷 金	300,000	
秩父宮家ご遺贈金	10,000,000	
図書出版研究基金	4,980,000	
長期計画積立金	39,300,000	
海外登山基金	93,500,000	
終身会費積立金	13,300,000	
退職給与引当預金	7,665,000	
その他固定資産合計	365,543,402	
固定資産合計		373,543,402
資 産 合 計		393,132,293
[2] 負債の部		
1. 流動負債		
前 受 会 費	260,000	
預 り 金	345,830	
流動負債合計		605,830
2. 固定負債		
退職給与引当金	7,665,000	
固定負債合計		7,665,000
負 債 合 計		8,270,830
[3] 正味財産の部		
正 味 財 産		384,861,463
(うち基本 金)		8,000,000
(当期正味財産増加額)		9,691,375
負債及び正味財産合計		393,132,293

計算書類に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法について
基本財産の貸付信託は、総平均法による原価基準を採用している。
- (2) 固定資産の減価償却について
建物及び什器備品の減価償却は行っていない。
- (3) 引当金の計上基準について
退職給与引当金は期末退職給与の要支給額の170%に相当する額を計上している。
- (4) 資金の範囲について
資金の範囲には、現金預金、未収会費、前受会費および預り金を含めている。なお、前期末及び当期末残高は、下記3に記載のとおりである。

書棚(木製2段)	56.12.22	500,000	図書室
16mm 映写機16-CL(MO)	61.5.13	156,000	事務所
木製書架ガラス戸付(2台)	62.9.24	700,000	図書室
シャープ液晶ビジョン一式	2.7.19	587,932	事務所
世界対応 VTR 001 NWV	4.5.11	250,000	"
小型気象ファクシミリ JAX-9	4.10.19	320,000	"
ナショナル冷凍冷蔵庫 NR-041VP2-H	5.3.20	250,000	山 研
ナショナル29インチテレビ TH-29VS35	5.3.20	280,000	"
ナショナルBS付ビデオ HV-BS50S	5.3.20	250,000	"
合 計		5,778,232	

財産目録記載外のその他物品リスト(主として受贈益)

1. 絵画

題 名	種類・号数	作 者 名	掲載、保管場所
白 馬 岳	油 - A 50	中村清太郎	大町山岳博物館
富 士 山 麓	油 - A 25	茨木猪之吉	河口湖町立美術館
田代池の白樺	油変形 6	中村清太郎	本 会
群 狼	墨 絵	石井 鶴三	本 会
伊豆半島	油 - 10	茨木猪之吉	松本アルプス山岳館
針の木峠より	油 - 10	茨木猪之吉	本 会
徳本峠から穂高連峰	墨 絵	石田 吟松	松本アルプス山岳館
初冬の両神山	油 - 10	茨木猪之吉	本 会
鳥(カット原画)	墨 絵	石井 鶴三	本 会
メールドグラス	エッチング		本 会
モンブラン	エッチング		松本アルプス山岳館
カンチェンジュンガ	エッチング	シネライギ	本 会
ユングフラウ	油	山里 寿男	伯耆国山岳美術館
瀬沢より北穂高	水彩 - 6	山里 寿男	松本アルプス山岳館
槍ヶ岳初夏	油 - 10	中村清太郎	本 会
カンチェンジュンガ	パステル	矢崎千代二	本 会
北穂高滝谷	油 - 25	足立源一郎	本 会
或朝の槍ヶ岳	油 - 25	足立源一郎	伯耆国山岳美術館
北穂高主峰	油 - 25	足立源一郎	本 会
槍ヶ岳	油 - P 8	足立源一郎	本 会
タンボチェの僧院	水彩 - 4	清野 恒	松本アルプス山岳館
シェルパの親子	水彩 - 4	清野 恒	松本アルプス山岳館
冬の山(清太山)	墨 絵	近藤 茂吉	松本アルプス山岳館
梓川秋色	油 - 12	後藤 三男	本 会
早朝の上高地山岳研究所	版画 - 8	松田 敏男	上高地山岳研究所
旧上高地山岳研究所	水彩 - 10	松田 敏男	上高地山岳研究所
焼 岳 秋 趣	版画 - 8	鈴木 正俊	伯耆国山岳美術館
ナムチャバルワ峰暮色	油 - 10	神原 忠夫	伯耆国山岳美術館
白馬雪田	日本画	丸山 晩霞	本 会
上高地秋景	油 - F 20	後藤 三男	上高地山岳研究所
マチャブチャレ	油 - 20	武井 清	本 会
朝 霧	水彩 - 8	越智 英夫	本 会
白樺の林	油 - 6	茨木猪之吉	本 会
麓 春	油 - P 50	倉員 辰雄	本 会
ヒマヤダーズに	油 - F 4	上野 春香	伯耆国山岳美術館

*その他絵画、写真省略

2. 図書

種 類	摘 要	冊 数
和 書	平成9年度 受入冊数 379冊	9629冊
洋 書	平成9年度 受入冊数 63冊	3334冊

秩父宮家ご遺贈金(定期預金・あさひ市ヶ谷)	10,000,000		
図書出版研究基金(定期預金・あさひ市ヶ谷)	4,980,000		
長期計画積立金(定期預金・東京三菱市ヶ谷)	39,300,000		
海外登山基金(定期預金・あさひ市ヶ谷)	93,500,000		
終身会費積立金(定期預金・あさひ市ヶ谷)	13,300,000		
退職給与引当預金(定期預金・あさひ市ヶ谷)	7,665,000		
その他固定資産合計	365,543,402		
固定資産合計		373,543,402	
資産合計			393,132,293
[2] 負債の部			
1. 流動負債			
前受会費 平成9年度 会費23名分	260,000		
預り金 職員に対する 源泉所得税その他	345,830		
流動負債合計		605,830	
2. 固定負債			
退職給与引当金	7,665,000		
固定負債合計		7,665,000	
負債合計			8,270,830
正味財産			384,861,463

注1) 棚卸資産内訳

種 類	摘 要	金 額
刊 行 物	山岳総索引、山岳覆刻版等	798,600
服飾品・その他	クラブタイ、タイ止等	1,950,129
合 計		2,748,729

注2) その他固定資産内訳

1 建物及び土地

A 事務所及び図書室			
場所	東京都千代田区四番町5番4		
構造	鉄筋コンクリート造、陸屋根、地下1階付5階建		
	(事務所)区分所有建物1階部分 103.32㎡		
	宅地持分 1,124.56㎡ × 339/10,000		
	=38.122584㎡		
	(図書室)区分所有建物1階部分 55.22㎡		
	宅地持分 1,124.56㎡ × 176/10,000		
	=19.792256㎡		
計	158.54㎡	宅地持分 57.91484㎡	¥ 72,720,170
B 上高地山岳研究所			
場所	長野県南安曇郡安曇村 4469 番地 1		
構造	鉄筋コンクリート造(一部木造) 1棟		
	274.09㎡		
合 計			¥ 118,000,000
			¥ 190,720,170

2 什器備品

品 名	取得年月日	取得価格	所 在
書庫内移動書架一式コンパックル	53.2.10	1,500,000	図書室
閲覧用テーブル(木製2台)	53.9.28	250,000	図書室
ライティングビューロー(木製)	54.6.23	280,300	事務所
フィルム収納キャビネット (スチール製品)	56.8.8	254,000	"
図書カード容器(木製3段)	56.9.12	200,000	図書室

- *中高年初心者のための登山講座(集会) 10月10日
- *岩登り研修会(指導、青年、学生、遭難対策) 10月23~25日
- *秋季新入会員オリエンテーション(総務) 10月24日
- *全国大学山岳部監督会議(学生、青年) 10月
- *海外登山報告(青年) 10月
- *全国山岳博物館連絡会議(資料) 10月
- *山岳フィルム映写会①(フィルムビデオ) 11月
- *自然観察山行①芦生の森(自然保護) 11月15日
- *第30回山岳図書を語る夕(図書) 11月
- *マラソン大会(学生) 皇居外苑11月
- *自然保護全国集会(自然保護) 京都11月14~15日
- *支部長会議(総務) 12月5日
- *年次晩餐会(総務) 12月5日
- *年次晩餐会記念山行(集会) 12月6日
- *青年部OB現役委員懇談会(青年) 12月
- *総務委員会ウインターセミナー(総務) 1月9~10日
- *スキー懇親会(集会) 1月15~17日
- *アイスクライミング研修会(学生、指導、青年、遭難対策) 1月30~2月1日

- *第27回山岳史懇談会(図書) 2月
- *雪崩ピーコン講習会(学生) 2月
- *支部事務局担当者会議(総務) グリーンホテル 2月27~28日
- *研究集会(医療) 2月
- *自然保護山行②忍野周辺(自然保護) 3月15日
- *山岳フィルム映写会②(フィルムビデオ) 3月
- *山岳史懇談会(図書) 3月
- *自然保護山行③木曾赤沢自然休養林(自然保護) 未定
- *第24回図書交換会(図書) 未定
- *新入会員オリエンテーション(総務) 3月13日
- *山岳スキー研修会(指導) 3月

(B) 研究会

- *海外登山研究会(学生) 6月
- *冬山登山研究会(学生) 12月
- *医療委員会研究集会(医療) 2月
- *百年史編集(百年史) 通年
- *ヒマラヤ事情研究会(海外) 2月

(C) 講演会、シンポジウム

- *講演会「日本人のチベット観」Ⅰ(海外) 4月16日
- *講演会「ヒマラヤを語る」(青年、高所) 5月
- *講演会「日本人のチベット観」Ⅱ(海外) 5月21日
- *講演会「夏山の天気」(科学) 6月
- *第18回日本登山医学シンポジウム(医療) 5月23~24日
- *講演会「日本人のチベット観」Ⅲ(海外) 6月18日
- *ボナッティ氏講演会(海外) 各地9~10月
- *シンポジウム「中高年登山者がこれからも登山を続けるために」(科学) 11月
- *山野井夫妻講演会(高所、青年) 11月
- *文部省登山研修所友の会シンポジウム参加(遭難対策) 11月下旬
- *講演会「数値地図を読む」(科学) 2月
- *自然保護シンポジウム(自然保護) 3月14~15日

2. 登山施設の運用、その他登山のための適切な事業

- *上高地山岳研究所の運用、資料室開設 5~10月
- *受入れ資料保管
- *各博物館、美術館との提携強化
- *海外遠征の記録、会合、行事等の記録的フィルムのビデオテープ化による保存

3. 山岳遭難の予防とその対策に関する企画および指導

- *各レスキュー隊との懇談、研修

4. 自然保護活動の推進

3. フィルム・ビデオ

フィルム	15点	「マナスルに立つ」他
ビデオ	188本	

監査報告

社団法人日本山岳会平成9年度の収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、および財産目録を監査し、正確妥当なことを認めます。

平成10年4月15日

社団法人 日本山岳会 監事 石橋 正美
監事 神崎 忠男

(社) 日本山岳会平成10年度事業計画(案)

(10.4.1~11.3.31)

1. 登山の指導と奨励に必要な集会、研究会、講習会および展覧会の開催

(A) 集会

- *新入会員サクラハイク(集会) 4月12日
- *安曇野リゾート問題研究(自然保護) 通年
- *山岳地の酸性雨影響調査(自然保護) 通年
- *し尿処理問題調査(自然保護) 通年
- *中国登山研究会(高所) 4月
- *白神現地調査(自然保護) 4月20日
- *「フォッサマグナの西縁の地形を探る」探索山行(科学) 4月
- *山岳スキー研修会(指導) 4月10~12日
- *谷川岳山行(青年) 5月
- *雪上総合技術研修会(指導、遭難対策) 5月2~5日
- *第5回古道を歩く(図書) 5月9日
- *支部長会議(総務) 5月16日
- *通常総会(総務) 5月16日
- *若葉会山行(集会) 5月23~24日
- *第3回登山と高所環境に関する国際医学会議(医療) 松本5月20~24日

*国際山岳救助医療研究セミナー(医療、遭難対策)

酒沢5月25~26日

- *委員会・同好会・同期会連絡会議(総務) 6月
- *岩登り講習会(指導) 6月13~14日
- *中高年夏山直前企画(集会) 6月20日
- *小川山集会(学生) 6月
- *写真展(フィルムビデオ) 6月
- *白神山地調査(自然保護) 6月
- *第52回ウエストン祭(信濃支部) 上高地6月7日
- *青年部OB懇談会(青年) 7月
- *全国山岳遭難対策協議会参加(遭難対策) 7月
- *山岳写真・ビデオ撮影指導(フィルムビデオ) 7月
- *ジュニア登山教室(山研運営) 7月8月
- *役員サマーセミナー(総務) 8月
- *名誉会員を囲む会(総務) 9月
- *カンチエンジュンガ峰報告会(高所、青年) 9月
- *ビールパーティー(集会) 9月5日
- *全国支部懇談会(総務) 秋田9月19~20日
- *第5回山を語る(図書) 10月
- *「トレッカーのための高山病対策」講演会(高所) 10月
- *きのこ山行(集会) 10月17~18日

指 導 費	1,230,000	1,160,000	70,000
支 部 関 係 費	11,000,000	10,900,000	100,000
海 外 諸 関 係 費	300,000	250,000	50,000
山岳研究所運営費	3,800,000	3,600,000	200,000
海外登山補助費	1,000,000	1,000,000	0
その他事業費	5,300,000	4,400,000	900,000
印刷・製本費	1,000,000	1,000,000	0
通信運搬費	5,500,000	5,500,000	0
事業費計	43,845,000	42,918,000	927,000
2. 運営管理費			
給料・手当	13,770,000	13,500,000	270,000
文具・消耗品費	250,000	250,000	0
印刷・製本費	2,000,000	3,600,000	△1,600,000
旅費・交通費	1,700,000	1,400,000	300,000
通信・運搬費	1,900,000	1,700,000	200,000
保険料	330,000	330,000	0
修繕費	200,000	300,000	△ 100,000
租税公課	550,000	600,000	△ 50,000
光熱水道費	700,000	750,000	△ 50,000
電話料	450,000	480,000	△ 30,000
会議費	400,000	300,000	100,000
什器備品費	300,000	500,000	△ 200,000
振替手数料	650,000	600,000	50,000
福利厚生費	280,000	260,000	20,000
事務所管理費	1,000,000	900,000	100,000
その他管理費	2,500,000	2,700,000	△ 200,000
負担金	200,000	135,000	65,000
賃借料	3,640,000	3,360,000	280,000
雑費	1,200,000	800,000	400,000
管理費計	32,020,000	32,465,000	△ 445,000
3. 固定資産取得支出			
什器備品購入支出	0	0	0
固定資産取得支出	0	0	0
4. 特定預金支出			
長期計画積立金支出	4,000,000	3,000,000	1,000,000
退職給与引当金支出	0	0	0
特定預金支出	4,000,000	3,000,000	1,000,000
5. 予備費			
予備費	1,500,000	1,500,000	0
当期支出合計(C)	81,365,000	79,883,000	1,482,000
当期収支差額(A)-(C)	215,000	257,000	△ 42,000
次期繰越収支差額(B)-(C)	16,449,332	11,644,716	4,804,616

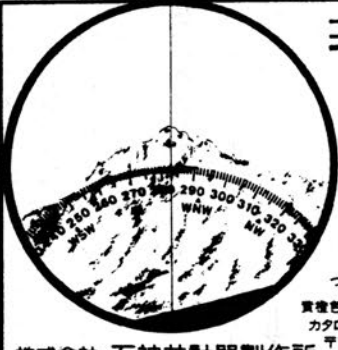
- *自然保護活動のミニコミ紙発行
- *山の自然保護指導者の養成
- 5. 機関紙等の発行
- *「山岳」第93年(1998)号の発行
- *会報「山」第635~646号の発行
- *インターネットホームページの開設
- 6. 国内および外国山岳団体との情報交換
- *国内関係団体(日本山岳協会、東京都山岳連盟、日本勤労者山岳連盟、HAT-J、日本ヒマラヤ協会、その他)との連絡
- *海外登山団体との機関紙の交換および情報誌の購入
- 7. 海外登山
- *第9次マッキンリー気象観測機器設置登山(科学) 6月
- *学生ブータン登山隊(学生) 10~12月
- 8. 表裏事業
- *秩父宮記念山岳賞の創設と表賞 12月
- 9. その他目的を達成するために必要な事業
- *山岳図書整備 10~11月
- *ネパールトレッキング実施
- *その他目的を達成するために必要な事業を行う

収 支 予 算 書 (案)

平成10年4月1日から平成11年3月31日まで

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	備考
I 収入の部				
1. 基本財産運用収入				
基本財産利息収入	80,000	80,000	0	
2. 会費・入会金収入				
入会金収入	5,000,000	5,000,000	0	
通常会費収入	65,500,000	63,840,000	1,660,000	
終身会費収入	0	0	0	
会費・入会金収入計	70,500,000	68,840,000	1,660,000	
3. 事業収入				
広告料収入	1,900,000	3,300,000	△1,400,000	
印税収入	20,000	20,000	0	
刊行物頒布収入	200,000	200,000	0	
その他事業収入	4,300,000	3,500,000	800,000	
山岳研究所使用料収入	3,380,000	3,000,000	380,000	
事業収入計	9,800,000	10,020,000	△ 220,000	
4. 補助金等収入				
補助金収入	0	0	0	
5. 寄付金収入				
寄付金収入	0	0	0	
6. 雑収入				
受取利息	700,000	700,000	0	
雑収入	500,000	500,000	0	
雑収入計	1,200,000	1,200,000	0	
7. 特定預金取崩収入	0	0	0	
当期収入合計(A)	81,580,000	80,140,000	1,440,000	
前期繰越収支差額	16,234,332	11,387,716	4,846,616	
収入合計(B)	97,814,332	91,527,716	6,286,616	

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	備考
II 支出の部				
1. 事業費				
出版費	10,680,000	11,500,000	△ 820,000	
図書管理費	800,000	800,000	0	
調査研究費	3,235,000	2,808,000	427,000	



コンパスグラス HB-3

広視野10°の明るい視野に目盛が重なって見えます。見た目標がそのままだ正しい磁気方位です。

重量78g.

つや消し黒 ￥17,000 送料 ￥600

実色メタリック ￥18,000 消費税別

カタログ代無料、電話、FAX、来書でどうぞ

〒177 東京都練馬区上石神井1丁目37番13号

TEL 03-3928-5411 FAX 03-3928-5411

株式会社 石神井計器製作所

東西南北

会員の皆様のご意見、エッセイ、俳句、短歌、詩などを掲載するページです。どしどしご投稿ください。(紙面に限りがありますので、一点につき二〇〇字詰原稿用紙五〜六枚でお願いします)



イラスト 野田四郎

若い会員がなぜ 増えないかを考える

中世古隆司

■若い登山愛好家の激減

今や日本山岳会(以下JACと略)の最大の悩みは、若い会員の不足であることは、誰しも感じていることと思う。若さを売り物にしてきた私の所属する東海支部も、まったく同じである。

「少子化」「趣味の多様化」「金にならない」「の三要素が、この現象に拍車をかけている。「少子化」「趣味の多様化」は今更言うまでもないが、「金にならない」というには、今の学校スポーツを見ても、皆が群がって入るのは、野球、サッカーといった、金と名声が入ってくる類のもの

である。これほどでなくても、進学や就職に有利なスポーツが好まれる。その点、残念ながら登山はそうした有利な条件とは無縁である。日本を代表するクライマーで大金持になったという話は聞いたことはない。かくしてJAC若手会員の最大の供給源であった大学山岳部員の減少は、部員不足から廃部あるいは廃部の危機にある大学が極めて多いことから見て、今後も若い会員が増える望みは薄い。

さらに、若者の登山離れは、未踏の地域や魅力的な未踏峰がほとんどないというアドベンチャー本来の魅力が山になくなってきたことにも一因があると思う。

■権威を失った山岳会

かつて中央アルプスの開拓などに大きな功績のあった故・跡部昌三さん

んは、東海支部が設立された後も、とくに支部との関係を持とうとはしなかった。彼は私に「僕が日本山岳会に入っているのは、登山家としての登録だよ」と言ったことがあった。これは極端な例かもしれないが、少なくとも私たちがJACに入ったころは「私もそれなりに登山(アルピニズム)をやってきた。JACに入ってもおかしくないだろう」という気持ちがあった。初めて晩餐会に出席したときは、日ごろ山岳書などを通じて知っていた大先輩の多くがずらりと座っておられ、「こちらへきて座りなさい」と言われても、恐れて多くて末席に控えていた。ところがどうだ。昨今の晩餐会はバーゲンセールのごとく殺到し、中心部から席が埋まる。もはや登山家集団としての会から、単なる山好きのおじさんとおばさんが圧倒的多数を占める会に、若い登山家が魅力を感じるわけがない。

とはいえ、私は今の大衆化路線に反対しているわけではない。冬の北アルプスは登れなくとも、日本百名山を登ったことが仰々しく本になるような平均的登山者の現状を見れば、当然の成り行きかもしれない。たとえ登山経験が乏しくても、社会人として立派な方や魅力のある人もたくさんいて、お陰で私はそれなりにク

ラライフをエンジョイしている。ただ若い登山家にとっては、面白い場所ではないことは、容易に想像できる。

■若い会員獲得への対策は

①海外遠征 悲観的なことばかり書いたが、現状を踏まえつつ、若者を獲得するにはどうしたらよいであろうか。全国支部事務局担当者会議などでこの話題が出るとき、私は決まって「海外遠征しかない」と言っている。しかし、トレッキングなどと違って本格的な登山隊を送っているのは、本部と東海支部ぐらいである。支部の中には、その気になれば十分出す力はあると思われるところもあるが、なぜかそうした話は聞かえてこない。各支部ではそれぞれの事情と独自性があり、私は干渉する気はないが、力のある支部がそうしたことに力を入れていて、本部と協力しながら競い合っていてきたならば、アルパインクラブとしてのJACはもう少し発展したのではないかと思われる。

最近、本部の青年部が中心となつて、毎年続けて八〇〇メートル峰に登山隊を出し、成果を上げている。隊員の間で、関係の大学山岳部の若手OBや現役だが、こうしたよい習慣を地方にも広げ、実力ある若

い会員を対象にした海外登山隊を出すのもよい。遠征のノウハウを覚え、これらの会員が、彼らの地元で遠征を出すようになれば理想的である。

今時、海外登山は以前ほど吸引力はないが、JACならではビッグプランやJACに入れば海外登山のチャンスが多いということ、地方の若いクライマーに知ってもらえば、勧誘もしやすいのではない。勧誘してまで入ってもらう必要はないという意見もあるだろうが、若い人が向こうから入ってくることは、まずあり得ないからである。

②入会金の減額 今から十数年ほど前であったが、私の尊敬する大先輩からの助言があり、総会の席で「若い人の入会金や会費の減額」の緊急提案をしたことがあった。その時は、私の説明が終わらぬ前からブーイングが起こり否決され、恥ずかしい思いをした。その大先輩は、若いときはアルピニズムの高度な実践者で、会の将来を大変心配しておられた。もうそのころには、大学山岳部の部員不足は相当進んでおり、山岳部とコンタクトを持つOBにとっては、深刻な悩みとなっており、JACも時間の問題だと思っていたからだ。しかし最近になって、二十六歳未満の入会金が免除になったことは喜ばしい。まだあまり成果があがって

海外の山

モデュイ ダウラギリに死す

江本嘉伸

五月なかば、ダウラギリ一峰を登っていた各国の登山家たちの間で、こんな会話が交わされた。

「シャンタルは一体どこへ行ったんだ？」

三十四歳のフランス女性。シャンタル・モデュイは、九二年のK2はじめ、チョーオユー、シシャパンマナスル、ローツェ、ガッシャブルムIIと、六つの八千メートル峰をいずれも無酸素で登っている強者だ。今回はシェルパのアン・リタ（エベレストに十回登ったシェルパとは別人）とともに七つ目の八千メートルをめざしていた。

同じダウラギリを北東稜からめざしていたアメリカの有名な登山家、エド・ヴィースチャーズはモデュイと同じ九二年にK2に登り、疲労から雪目になったシャンタル・モデュイの下降を助けたことがある。そのモデュイが忽然と姿を消し、一週間も不明になったのだ。

五月七日、彼女が第二キャンプに

入ったあと、ダウラギリ一帯は激しい風雪に見舞われ、どの隊もいったんベースまで降りた。モデュイたちは降りてこず、通信手段を所持していなかったため、連絡の方法もなかった。

五月十四日になって、五十メートル離れた場所にテントを張っていたイタリア隊の二人が戻り、モデュイのテントが雪に埋まっているのを確認、翌日スコップで掘り起こした。

寝袋の中で、二人は遺体となっており眠っていた。

当初雪崩にやられた、と思われたモデュイたちの死因は、状況から窒息死とみなされた、とヴィースチャーズは伝えている。

モデュイの遺体は、十人のシェルパによって丁寧に下ろされ、故郷のフランスに運ばれた。そこであらためて、脊椎が損傷しているのが確認された。ロックバンドを越えて襲った雪崩が彼女の首を一撃したものと推測された。

シャンタル・モデュイは、小さな自分流儀の登山を好み、花の名を登山の都度つけていた。今回の「ひまわり」だった。

ところで、モデュイはエベレストにだけは、八度も挑戦しながらまだ登っていない。八五〇〇メートルま

では何度か達しているが、「無酸素、独立したスタイルで」を通そうとした結果、不登頂を貫いた形だ。

そのエベレストだが、延べ登頂者数が、ついに千人を超えた。

カトマンズ在住のヒマラヤ・ウォッチャー、エリザベス・ホウリーによれば、この五月だけでなんと百十八人が南北両サイドから登り、延べ登頂者数は千四十八人に達した。内訳はネパール側からは四十五人、チベット側からは七十三人。

エベレストの登頂者数については、このコラムで何度か取り上げた。

一九八五年十二月には「延べ二百一人のエベレスト登頂者」として、最初の百人が登るまで二十六年かかった登頂者が「わずか六年で二百人目を達した」ことを驚き、初登頂「四十周年」にあたる一九九三年三月には「まさかの登頂五百人」のタイトルで、盛況ぶりを書いた。

そして今年ついに千人。五百人は五年で達成されてしまったのだ。

先月号の「ウズベキスタンの登山家夫婦の悲報」訂正。ロシアのセルゲイ・アルセンティエフとアメリカ人の妻、フランシスで、無酸素登頂を果たし（？）下山中、妻は第一ステップ付近で疲労死し、救出にあたった夫は行方不明となった。

いないようであるが、若い会員の入会の一助になることは間違いない。

③会報 さて若くして入った会員が、仲間も入るように呼びかけるような会にするには、どうしたらよいであろうか。私のように還暦を過ぎた会員よりも、実際の若い会員に聞いたほうがよいと思われるが、日ごろ思っていることを二、三、言わせてもらいたい。まず唯一全会員のコミュニケーションを図る会報「山」。できるだけ多くの会員に満足してもらえるように作るのだから仕方がないが、若い人にはあまり面白くないと思う。私が編集している東海支部報でも、そう思っている。

「山」によく出てきた「ウエストンがどこそこの宿に泊まった」とか「エーデルワイスがどこそこに咲いていた」の類は、一部の好事家には大事件かもしれないが、若い会員にとっては興味をひくまい。

しかし最近「山」は現代の登山に詳しい人が編集しているという感じを受け、読み応えが出てきた。

④宿泊施設 JACのルームは、現在の三部屋を使用しても手狭になっけてきているが、今度はできたら、地方の会員が上京したときに宿泊できる簡易ベッドのある部屋がほしい。宿泊料は無料か、せいぜい掃除程度が望ましい。東海支部では遠征の

ときは名古屋以外の会員の参加もある。そこで、梱包その他で宿泊の必要のあるときは支部ルームにマットと寝袋で泊めている。遠征と関係なくとも、若い会員にとってはそうした施設があることは大きな魅力である。

⑤人工壁 右と同様な考えで、JAC専用のクライミングウォールをどこかに作ることが望ましい。人工壁登りが登山とは思えないが、若いクライマーを惹きつける要素は大いにあり、登山に役立つことは間違いない。

正直なところ、若い会員獲得の特効薬はなかなか見つからない。よい考えをお持ちの方はぜひ聞かせてほしい。会員サービスは、実際に会費を納めている人たちの平均的な必要に応じて行うのは当然だが、そのうちの一部を将来のJACのために、若い会員や未知の若いクライマーにも投資したらいいかなものであろうか。

JACを考える

吉川明秀

平成十年、全国支部事務局担当者の会議は「JACを考える」が会議のテーマでした。その会議の基調講演は織内信彦名誉会員の「JACの理

想を語る」、神崎忠男会員の「二十一世紀のJACを語る」であり、いずれの講演も興味深いものでした。

織内会員の日本山岳会の伝統は「倶楽部」クラブ「苦楽部」であるとの提言、そして神崎会員は「登山文化のすすむ山登り」という提言であったと思います。その会議の印象の中から私個人の想いを記してみます。

文化とはひとつの目的を作り出す過程であり、達成された目的は文化財（ただし形がある場合）であると考えます。私流に考えてみますと、登山行為は文化そのものとなるのですが、それは一人一人の登山者がどんな意図を持って登山行為を行うかということが大きな意味を持つことになります。

戦後の経済発展の中を走りぬけてきた、今の中高年といわれる世代は先進諸国に追いつき、追いつきとばかりに、その一点に向けて一生懸命走ってきた方々でしょう。そして走り続けてきて、ふと立ち止まってみると、その発展過程の枠組みの中に何かを置き忘れてきたことに気づき、自らの復権を求めている山登りが中高年登山ではないかと思えます。

山登りは衣食住のすべてを自分で責任を持つという行動でありますから、人間の姿の原点がそこにあるといえます。そこで自分というものを

再考してみようというとき、山登りは魅力ある行動となる。ここに、中高年登山の流れの源流があるように思えるのです。

山に登ってから考えるのか、山に登りながら考えるのか、あるいは山に登る前に考えるのか、人によってそれぞれでありましょうが、自らの復活という意図であるならば、これもある種の「登山文化のすすむ山登り」といえるのではないのでしょうか。

従来からの山登り形態に中高年登山を加えて、一層多様化した山登りの現状だと思えます。山登り、そして会員も多様化してきている中、日本山岳会は何処へと混迷の渦の中へ飲み込まれはしないだろうかと危惧してしまいます。一度原点（設立主旨）に立ち戻り、日本山岳会のありようを明確にし、末端会員まで意識の浸透を図ることが百年を期に望まれることではないでしょうか。

高額の会費を納めているのだから、日本山岳会から何かをむしりとうとする意識ではなく、日本山岳会に対して自分は何ができるのかという意識に立って活動に参加することが日本山岳会の伝統だと思う二日間でした。（伯耆国山岳美術館館長）

*伯耆国山岳美術館は鳥取県・伯耆大山の裾野にあり、日本山岳会会員は二割引で入館できます。

詩

つづし (花木抄より)

荒賀憲雄

樹海のなか

密生する熊笹の

あれるわだつみを

はてしなくわたって

ふいに一本の

辛夷の木にであつた

むこうの尾根から

この新緑の海に

ちりばめられたむすうの白い点々を

はるかに眺めたのは昨日のことだった

あれから

水のほとりに眠り

今朝は

雪に圧せられて下向きに臥た

山腹の藪を逆に漕いで

ようやくたどりついた

辛夷の木の本

おもわず幹にしがみついて

はげしく喘ぎながら

ふり仰いだ視線の先の

あくまで青い五月の空に

光をしたたらせて浮かぶ
花々の幻を
食い入るように
みつめていた

ゆらめく花冠を頂いて

すっと立った

この

かぎりなく高貴な

白いものに

長い旅路のはてで

今めぐりあつた

いっぴきのをすの

渴いたまなざしで



イラスト 宇都木慎一

トトリノ、豊田、豊科で
日本の山岳写真展

大森久雄

イタリアの国立トリノ山岳博物館
で写真展「日本アルプス・はるかな
る山々の写真」がおこなわれている。
五月十五日から八月三十日まで。展

示作品は百二十点。河野齡蔵、辻本
満丸、武田久吉、穂苅三寿雄、冠松
次郎など明治・大正のころから現在
活躍中の写真家まで二十九人の作品
で、信仰登山からヒマラヤ、アンデ
スまで幅広く日本の登山の変遷を浮
き彫りにするもの。山岳写真研究家
・杉本誠氏とアウディーズイオ館長
の企画、フォスコ・マライーニ、ミ
ヤハラ・ミツオ両氏の協力によるも
ので、ヨーロッパでこの種の写真展
が開かれるのはおそらく初めて。

五月十四日の開会式と前夜祭に参
加したが、大変な評判で、集まった
人々は熱心に写真と解説を見つめて
いた。イタリア山岳会の関係者から
は、日本アルプスという名前はいつ
からあるのかとか、実に面白い、写
真がモノクロームなのが効果をあげ
ているなどの話が聞かれた。

立派なカタログができていて、館
長から日本山岳会図書室へ寄贈され
たのを預かってきた。

開会式と前夜祭の夕食会には、ワ
ルター・ボナッティ氏が夫人(女優
のロッサナ・ポデスタさん)同伴で
現れたのにはびっくり。白髪・温厚
にこやかな紳士で、あの過激・強烈
な山歴から受ける印象とはまったく
逆の、実に物静かな人だった。新奇
なものよりも古くからある、静かな
世界が好きだと語り、最近はいん

ネシアなどの海底火山に興味を持ち、
秋には日本に行く話があるとのこと
だった。

この写真展は日伊同時開催で、日
本展のタイトルは「日本の山岳写真
80年」。豊田市美術館では六月二日
〜十四日に開かれ、写真のほか一九
一九年便利堂発行、二百部限定の石
崎光瑤『印度窟院精華』や辻本満丸
の一九〇六年、甲斐駒・鳳凰・ハケ
岳登山記の自筆原稿とスケッチなど
も展示された。

長野県豊科町の田淵行男記念館で
は、写真家三十人、展示作品七十五
点にして、七月十一日〜八月三十日
日におこなわれる。

アメリカ本土最高峰4418ドル

Mt.ホイットニー登頂と

デス・バレー、ヨセミテ国立公園 8日間

8/28発442,000円 9/4・9/11発432,000円



運輸大臣登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員

アルパインツアーズ株式会社

〒105-0003 港区西新橋1-12-1(西新橋1森ビル) TEL.03-3503-1911

大阪 ☎06(444)3033 名古屋 ☎052(581)3211 福岡 ☎092(715)1557

同好会 報告

REPORT
7月

三水会現地集會

西上州・塚山

桜の花が咲き誇る四月四、五日、快晴のもと、恒例の現地集會が一泊二日で行われた。池袋に集合し、和やかにスタート。川崎精雄さんの昔話がかがえる予定が、奥様の急病により残念ながら欠席との報で、遥かなる塚山はやや遠くなる。

西武秩父駅からは予約のタクシード、小鹿神社前のそば処「みち庭」で幹事お勧めの天もりそばを食し、参加者の登高意欲は盛りあがる。

土坂峠を越え、万場町から投石峠へ、そこから残雪の急斜面を登り、一気に西御荷鉾山頂へ。三六〇度の展望で、目の前には両神山の岩峰を従えた秩父の山並みが、西にはオドケ山から赤久縄山、杖植峠方面が目に入る。記念写真を撮り、四時には万場の今井屋に到着。入浴後、大宴

日本山岳会の各委員会
同好会の活動報告です。

会へと続く。メンバー寄贈の八海山、夢幻他の銘酒に会話が弾む。

翌朝、七時朝食後、宿の若主人運転のマイクロバスで登山口へ。しばらく歩くとTV中継所が見えた。二班に分かれ、無事塚山登頂、思ったより近かった。先発組は塚山から土坂峠までの縦走路を歩き、後発組は山中の空缶を集めての下山で、三水会の心意気を示す。

両班は土坂トンネル脇でドッキング、タクシードで西武秩父駅へ。駅前のそばどころ「おいで」で無事下山の打ち上げを盛大に行って帰途についた。参加者十三名。(高木康雄)

ジャック93会第八回登山集會

甲州高尾山

桜と山はもちろんのこと、ワイン工場見学の殺し文句に引かれて、四月十二日、お花見ハイキングに参加

する。まことに春爛漫、好天この上なく、春霞たなびく勝沼ぶどう郷駅頭からは、うすぼんやりと白峰三山が垣間見える。駅前は見事な満開の桜。それにしても桜の開花日びつたりにサクラハイキングを合わせるなんて芸当は、プロの気象予報士も顔負けだ。

勝沼ぶどう郷駅集合の十時に、参加者二十四名がうちそろった(後で車できた大場氏が追いついて二十五名参加)。タクシー五台に分乗して、まずは大滝不動尊へ。のけぞるような不動尊の階段を上る。階段に並行して落ちてくるのは四〇メートルの雌滝、さらに見上げると天を衝くような絶壁から落差一三六メートルの大滝が勢いよく流れ、まるで中国の山水画の世界にいるようだ。

滝の下部から山道に取り付く。ジャック93会の会員諸氏はさすが歴戦のつわものぞろい、その足の速いこと、ついていくのに必死だ。快適な汗をかき、ひよっこり飛び出した稜線は風が強く、何一つ遮るものもない大展望台だった。それもそのはず、稜線から反対側の山稜が無残にも山火事で丸坊主になっていたからだ。

坊主山の棚横手山(一三〇六メートル)に十一時二十八分に着く。担ぎあげた一升瓶のワインはアペリティブとして皆さんに飲んでいただ

いた。アルコールも入り談論風発、山上の大昼食会はこの上なく楽しくにぎやかだった。

暑いくらいの真昼の太陽を浴び、高尾山(一一〇六メートル)着は十三時。このあたりは山火事がたびたび起きている。平成四年四月に発生した山火事は三日三晩燃えた。また、昨年三月十一日にも出火していて、焼失面積三七五ヘクタールにおよぶといわれる。お陰で予期せぬ閑静な展望を得ながらの稜線漫步となった。

うらかな春の陽を浴び、満開のサクラに囲まれた大善寺薬師堂に十四時五十分着。国宝大善寺は創建七百年を経る古刹、総檜皮葺きの大伽藍は重厚極まりなく、密教建築の傑作と伝えられる。

大善寺を出て少し高台を登り、そぞろ歩きしばしで最終目的地の「シャトー勝沼」のワイナリー工場に着く。十五時十五分であり、まことに行程表どおりのタイムである。ワイナリー工場を見学した後は試飲会とあいなり、うまい、やや辛いのだとワイン談義がしばらく続く。

それぞれお土産用にワインを手にしてワイナリーを出発したのは十六時。火照った頬を夕暮れの風が気持ちよくなで、満ち足りた気持ちで勝沼ぶどう郷駅へと帰り道をとった。

(加藤恒彦)

岐阜支部

支部総会と輝山登山

四月二十五、二十六日、丹生川村の朴の木平スキー場近くの民宿・「牧」で、平成十年度岐阜支部総会と輝山登山を会員・会友三十四名が参加して開催した。

高木崎男支部長から「平成十一年秋に、当岐阜支部が主管になって全国支部懇談会を開催する。今日はその実行委員長さんなど担当委員を決めて準備に取りかかっていたいただきます。皆さんよろしく協力願います」と挨拶があった。続いて議事に入り、平成十年度事業計画など六議案を原案どおり可決した。

懇親会に入って、岡田清美さんなど新入会員、会友の紹介の後、乾杯

JAC
支部だより



全国各地の支部から、独自の活動状況をレポートします。

し懇親を深めた。

四月二十六日、早朝七時に民宿を出発した。登山口である平湯峠はガスが一面に覆っていた。三日連続して愚図ついている天気は、今日は「晴れ時々曇り」の予報である。総勢三十二名が峠から輝山に向かって出発。輝山は、峠の西方、丹生川村と上宝村境にある標高二〇六三メートルの山である。近くに、乗鞍岳、槍、穂高岳、笠ヶ岳など名高い山が連座していることもあって、この山を訪れる者は少ない。岐阜支部はあえてこの山を選んだ。「輝山」、なんと響



輝山頂上に登った32名

きのよい山名だろう。里では、この山へ最初に朝日が射し、夜明けを告げるところから名づけられたという登山者が少なく、道もない藪山へ登るなんてこの上なく魅力的でわくわくするものだ。

三十分ほど中部電力送電線の巡視道に登る。後は道はなく藪に突入した。目印に赤い布を小枝につけながら登った。朝露ですぐに濡れになってしまった。それでもところどころ雪が残っているとところもあって助かった。一九七六メートル峰東面は崖となり切れ落ちていた。石を落とさないよう慎重に登った。上部は痩せ尾根となって背丈以上の笹の中の登りであった。約三時間かけて全員が頂上へ立った。

登頂と同時に、乗鞍岳を覆っていたガスがとれ、眼前にドーンとその容姿を現し、大歓声……。

高木泰夫副支部長の音頭で「輝山万歳」を三唱し、ビールで乾杯。おいしくいただいていると、今度は残雪が縞模様を描いた槍、穂高岳、笠ヶ岳などが姿を現し、このグッドタイミングに再び歓声。改めてよい山へきたものだった。二等三角点

を中心し、思い思いの場所に円座になって昼食にした。



恒例の“ヤッホー”三唱

正午ちょうどに頂上を後にした。下山の途中からは平湯温泉街の全容を見下ろすことができた。安房トンネルが貫通し、中部縦貫自動車道が開通して、つい最近まで「陸の孤島」と呼ばれていた平湯温泉街は、また大きな転換期を迎えようとしている。「輝山は、今と変わることなく堂々と立派な姿でそびえ続けるであろう。道などつけないでこのままの姿であってほしい」そんなことを願いながら、十三時三十分全員峠へ下山した。「有り難う。ありがとう」と、岳友に別れを告げて、家路へと三々五々峠を後にした。

(藤田純江)

今年もさげふんで会いましょう

ネパール「JACネパール・トレッキング」

総務委員会・海外連絡委員会・集会委員会

本年は「ネパール観光年」に当たります。日ごろ会員からご要望の多いチャーター便による「ネパール・トレッキング」を計画致しました。

目下、建設がすすめられている「ポカラ国際山岳博物館」の視察、ネパール山岳協会(NMA)との交歓会、本会自然保護委員会のシバプリ・シャクナゲ植林の視察も行いたいと考えています。グループでの参加、会員の紹介による会員外の方の参加も大歓迎です。

出発日：1998年11月20日(金)～11月28日(土) 9日間

航空便：往復便共チャーター便を利用

*日本～カトマンズ直行便(関西空港発着)

企画：(社)日本山岳会

旅行取扱い：下記3社による手配旅行

1. 各コース共JAC会員がリーダーとして参加します。
2. 旅行日程の効率化を計るためチャーター便を利用。
3. 7日目夜はネパール山岳協会と参加者の交歓パーティ(会費別途)

申し込み方法

参加申し込みは(社)日本山岳会事務局にて受け付けております。

- 1 官製ハガキに住所、氏名、電話番号、希望コース記入の上「JACネパール・トレッキング希望」と明記し、本会事務局宛にお送り下さい。
- 2 事務局よりコース案内書および参加申込書をお送り致します。必要事項ご記入の上ご返送下さい。また指定の口座へ申込金をお振り込み下さい。
- 3 参加申込書受け取り後、各担当旅行会社より出発までの渡航手続き案内等をお送りします。

申し込み締めきり 8月21日(金)

※既に申込ハガキを送っていただいた会員の方へは参加申込書を事務局より発送致します。

●コース詳細については下記各担当旅行会社へ直接お問い合わせ下さい。

㈱アトラストレック

☎東京03-3341-0030

☎大阪06-341-9600

☆Dコース担当☆

アルパインツアーサービス㈱

☎東京 03-3503-1911

☎大阪 06-444-3033

☎名古屋 052-581-3211 ☎福岡 092-715-1557

☆C,E,F,Gコース担当☆

ヒマラヤ観光開発㈱

☎東京 03-3574-9292

☎大阪 06-346-0360

☆A,B,H,I,Jコース担当☆

「JACネパール・トレッキング」共通旅行条件(抜粋)

旅行期間：平成10年11月20日(金)より9日間

発着地：関西国際空港

利用航空会社：ジャパンエアチャーター㈱

利用ホテル：各コース日程表によります。

食事条件：各コース日程表によります。

最少催行人数：各コース10名以上

添乗員：ナシ

コースガイド：各コース共山岳会会員が参加します

が、いわゆるバック旅行ではありませんのでご了承下さい。

*国内線/羽田、札幌、福岡、その他日本航空国内線運

行路線については特別割引運賃の適用があります

のでお問い合わせ下さい。

「旅行代金に含まれる物」

・関西国際空港～カトマンズ間往復国際航空運賃

(ジャパンエアチャーター便エコノミークラス利用

便予定)日程表表記の各地宿泊(二人一部屋)、ネ

パール国内交通、お食事のみの費用

・手荷物運搬料金(20kg、スーツケース1個とお考え下

さい。)一部地域を除く。

・トレッキングの場合の共同装備一式およびトレッ

キング許可書、入園料等)

「旅行代金に含まれない物」

・渡航手続き書費用(パスポート等の取得、ネパール

入国査証の取得等々)

・各国空港施設使用料または空港税

・日程表に記されない各地食事

・日程表に記されない各地交通

・20kgを超える超過手荷物運搬代金

・海外旅行傷害保険料

・個人的な費用の一切(チップ、洗濯、電話、飲み物、土

産等々)怪我や病気に伴う出費

・ご自宅より関西国際空港往復交通費

◎お申し込み後の取消料：(貸切航空機を利用する場合

の包括料金特約を前提にしています)

一旅行開始日の前日から起算してさかのぼって、

90日目～31日目……旅行代金の20%

30日目～21日目……旅行代金の30%

20日目～04日目……旅行代金の50%

3日目以降当日まで……旅行代金の100%

当日無連絡不参加……旅行代金の100%

以上は、平成10年6月15日現在の各種運賃および米ド

ル為替水準を基にさせていただいております。

A

マナスルベースキャンプとボカラミニトレッキング 9日間

①午前:関空発→カトマンズ(ホテル泊)②終日:カトマンズ・バタン市内観光(ホテル泊)③午前:カトマンズ→マナスルベースキャンプ滞在(テント泊)④午前:マナスルベースキャンプ→ボカラ(ホテル泊)⑤午前:ボカラ→カール(●2時間)▲オーストリアキャンプ(テント泊)⑥終日:オーストリアキャンプ(●5時間)▲ダンプス▲フェディ→ボカラ(ホテル泊)⑦午前:ボカラ→カトマンズ(ホテル泊)⑧午後:カトマンズ→バンコク(機中泊)⑨→早朝:関空着
ご旅行代金 **395,000円** / 10名様~20名様参加の場合のお一人様あたり
取扱い/ヒマラヤ観光開発

C

エベレスト展望トレッキングとシェルパの里 9日間

①午前:関空発→カトマンズ(ホテル泊)②午前:カトマンズ→ルクラ(●3時間)▲バグディン(テント泊)③終日:バグディン(●6時間)▲ナムチェバザール(テント泊)④終日:ナムチェバザール(●6時間)▲ホテルエベレストビュー▲ナムチェバザール(テント泊)⑤終日:ナムチェバザール(●7時間)▲ルクラ⑥午前:ルクラ→カトマンズ(ホテル泊)▲カトマンズ滞在(ホテル泊)⑦午後:カトマンズ→バンコク(機中泊)⑧→早朝:関空着
ご旅行代金 **273,000円** / 10名様~20名様参加の場合のお一人様あたり
取扱い/アルパインツアーサービス

E

ガウリシャンカールトレッキング 9日間

①午前:関空発→カトマンズ(ホテル泊)②午前:カトマンズ→ハヌマンテ峠 午後:ハヌマンテ峠(●2時間)▲メハレ・チャウル(テント泊)③終日:メハレ・チャウル(●6時間)▲ゴテ・ダンダ(テント泊)④終日:ゴテ・ダンダ滞在(テント泊)⑤終日:ゴテ・ダンダ(●7時間)▲チョルドゥン・ピーク▲チトレ(テント泊)⑥午前:チトレ(●1時間)▲ジリ→カトマンズ(ホテル泊)⑦終日:カトマンズ(ホテル泊)⑧午後:カトマンズ→バンコク(機中泊)⑨→早朝:関空着
ご旅行代金 **259,000円** / 10名様~20名様参加の場合のお一人様あたり
取扱い/アルパインツアーサービス

G

八千m峰パノラマ・フライトと
ジョムソン・ロッジ・ハイキング 9日間

①午前:関空発→カトマンズ(ホテル泊)②午前:カトマンズ→ボカラ(ホテル泊)③午前:ボカラ→ジョムソン(ロッジ泊)④終日:ジョムソン(●6時間)▲ツクチェ方面往復▲ジョムソン(ロッジ泊)⑤終日:ジョムソン(●6時間)▲カグベニ方面往復▲ジョムソン(ロッジ泊)⑥午前:ジョムソン→ボカラ(ホテル泊)⑦午前:ボカラ→カトマンズ(ホテル泊)⑧午後:カトマンズ→バンコク(機中泊)⑨→早朝:関空着
ご旅行代金 **319,000円** / 10名様~20名様参加の場合のお一人様あたり
取扱い/アルパインツアーサービス

I

ボカラ滞在和チトワンジャングルサファリ 9日間

①午前:関空発→カトマンズ(ホテル泊)②終日:カトマンズ・バタン市内観光(ホテル泊)③午前:カトマンズ→ボカラ(ホテル泊)④午前:ボカラ→サラコットの丘ハイキング(●2時間)▲ボカラ(ホテル泊)⑤午前:ボカラ→チトワン国立公園(ホテル泊)⑥終日:チトワン国立公園滞在(ホテル泊)⑦午前:チトワン国立公園→カトマンズ(ホテル泊)⑧カトマンズ→バンコク(機中泊)⑨早朝:早朝関空着
ご旅行代金 **273,000円** / 10名様~20名様参加の場合のお一人様あたり
取扱い/ヒマラヤ観光開発

B

マナスルベースキャンプとボカラ滞在 9日間

①午前:関空発→カトマンズ(ホテル泊)②終日:カトマンズ・バタン市内観光(ホテル泊)③午前:カトマンズ→ボカラ(ホテル泊)④午前:ボカラ→マナスルベースキャンプ(テント泊)⑤午前:マナスルベースキャンプ→カトマンズ(ホテル泊)⑥午後:カトマンズ→ナガルコット(ホテル泊)⑦午前:カトマンズ→バドガオン市内観光→カトマンズ(ホテル泊)⑧午後:カトマンズ→バンコク(機中泊)⑨→早朝:関空着
ご旅行代金 **398,000円** / 10名様~20名様参加の場合のお一人様あたり
取扱い/ヒマラヤ観光開発

D

アンナプルナ・タウラギリ山岳展望トレッキング 9日間

①午前:関空発→カトマンズ(ホテル泊)②午前:カトマンズ→ボカラ→ルムレ(●1時間)▲チャンドラコット(テント泊)③終日:チャンドラコット(●6時間)▲ガンドルン(テント泊)④終日:ガンドルン(●4時間)▲タダバニ(テント泊)⑤終日:タダバニ(●5時間)▲ゴラバニ(テント泊)⑥終日:ゴラバニ(●8時間)▲ヒレ(テント泊)⑦午前:ヒレ(●3時間)▲ナヤブル→午後:ボカラ→カトマンズ(ホテル泊)⑧午後:カトマンズ→バンコク(機中泊)⑨→早朝:関空着
ご旅行代金 **279,000円** / 10名様~20名様参加の場合のお一人様あたり
取扱い/アトラストレック

F

ランタン山群ヘリコプター入山トレッキング 9日間

①午前:関空発→カトマンズ(ホテル泊)②午前:カトマンズ→ゴラタベラ(テント泊)③午前:ゴラタベラ(●3時間)▲ランタン(テント泊)④午前:ランタン(●3時間)▲キャンジン・ゴンバ(テント泊)⑤終日:キャンジン・ゴンバ(●7時間)▲ラマ・ホテル(テント泊)⑥終日:ラマ・ホテル(●6時間)▲シャブル・ベンシ(テント泊)⑦終日:シャブル・ベンシ→カトマンズ(ホテル泊)⑧午後:カトマンズ→バンコク(機中泊)⑨→早朝:関空着
ご旅行代金 **311,000円** / 10名様~20名様参加の場合のお一人様あたり
取扱い/アルパインツアーサービス

H

ヒマラヤ展望 2泊3日のトレッキング入門 9日間

①午前:関空発→カトマンズ(ホテル泊)②午前:カトマンズ→ボカラ(ホテル泊)③午前:ボカラ→カール(●2時間)▲オーストリアンキャンプ(テント泊)④午前:オーストリアンキャンプ(●3時間)▲ダンプス(テント泊)⑤終日:ダンプス(●2時間)▲フェディ→ボカラ(ホテル泊)⑥午前:ボカラ→カトマンズ(ホテル泊)⑦午前:カトマンズ市内観光 午後:自由行動(ホテル泊)⑧カトマンズ→バンコク(機中泊)⑨→早朝:関空着
ご旅行代金 **259,000円** / 10名様~20名様参加の場合のお一人様あたり
取扱い/ヒマラヤ観光開発

J

自然保護委員会シバプリ植林体験と展望トレッキング 9日間

①午前:関空発→カトマンズ(ホテル泊)②午前:カトマンズ→シバプリしゃくが植林地へ。午後:JAC担当者からの現地説明と植林作業(テント泊)③午前:植林作業 午後:登山口(●3時間)▲シバプリ山腹へ。(テント泊)④終日:シバプリ山腹(●3時間)▲シバプリ山頂(テント泊)⑤終日:シバプリ山頂(●6時間)▲チソバニ(テント泊)⑥終日:チソバニ(●6時間)▲ナガルコット(ホテル泊)⑦午前:ナガルコット→バドガオン観光→カトマンズ(ホテル泊)⑧カトマンズ→バンコク(機中泊)⑨早朝:早朝関空着
ご旅行代金 **265,000円** / 10名様~20名様参加の場合のお一人様あたり
取扱い/ヒマラヤ観光開発

→=飛行機 ⇄=車 ⇄=ヘリコプター ▲=トレッキング ●=全歩行

「ネパール観光年記念・JACネパールトレッキング」資料につきましては本会事務局へご請求下さい。

図書紹介



★紹介図書は全て税別価格です

白旗史朗・著

『ROCKY MOUNTAINS』

本書はカナディアン・ロッキーの約三百二十座の中から百九点を厳選した巨匠の手による写真集である。その一枚一枚の裏には、約十萬回ものシャッターが切られたという。ロッキー山脈に入山すること八回、のべ二百八十六日をかけ、山と対峙し、たとえ同じ場所であっても、一回一回を最後のチャンスとしてとらえ、新鮮な気持ちで最大限に風物を引き出すことに努力したという。

地球は今、人間だけのものとして大地を乱開発し動植物の住処を追ひ、自然破壊へと突き進んでいる。そうした中で山深くカナディアン・ロッキーに入ったときこそ原始の姿を見ることができ、山々を通して地球の自然を後世に残したいと願っている。

豪華装丁の写真集を手にしたとき、

ギャラリーに入り込むような気持ちになる。とくに高画質の大判印刷のインパクトは強く、鑑賞し終わったときにどこかほっとして本を閉じる。

こうした写真集はさすがに高価だが価値は高い。本書の鑑賞？をかねて図書室を訪ねてみるのも趣があるのではないだろうか。(林 栄二)

一九九七年十月 山と溪谷社発行
一九〇ページ 二万円

能海 寛・著

『能海 寛遺稿』

明治三十年代に、当時厳重な鎖国制度をとっていたチベットへ、密かに入国を企てた日本人が四人いた。寺本婉雅、成田安輝、河口慧海、そして能海寛(のうみ・ゆたか)である。

成田以外は僧侶で、ラサでチベット仏教を学ぶことが目的であった。このうち、能海以外の三人は、無事チベット入国を果たすのであるが、一人彼だけは、チベットへ向かう旅の途中で行方不明となり、以後その姿をどこにも現すことはなかった。

彼の行動の概略は、節目節目に送られてきた書簡によりつかむことができる。最初は重慶から打箭路に入り、金沙江のほとりて官憲によって追い返され、二度目は西寧から青海

ルートをとったが、途中丹噶爾(タシカル)で金品を盗まれてしまう。それでもチベット入国の決意と意志は強く、決死の覚悟で雲南省ルートからの入国を敢行する。

本書は、大正六年に能海寛の十七回忌を記念して遺稿集として刊行された本の復刻版である。

内容は、書簡集、遺品目録、追悼文などからなっている。元版の装丁は、馬に乗った僧侶が西に向かって進み、頭上には雪山が輝くというロマンチックなものであった。本書ではこの図案の一部がタイトルページに入り、カバーに能海寛の肖像画が使用されている。また巻頭に、江本嘉伸氏の適切な解説が加えられた。したがって本書は、単なる復刻版というよりも新装版といったほうがよいだろう。

いずれにせよ本書の元版は、わが国のチベットに関する文献の中ではもっとも入手しがたい稀覯本といわれていたもので、再刊された意義は大きい。

なお、能海寛に関しては、彼の出身地、島根県金城町波佐から「チベット探検の先駆者『能海 寛』」(隅田正三著)と題する調査研究の書が出ている。(岩瀬皓祐)

一九九八年二月 五月書房発行
二五五ページ 六千円

HJ編集長カバディア氏より インド測量部発行地図を受贈

去る一月下旬本会に来室の折、図書室所蔵の地図を見て、インド関係の地図が少ないことを気にされ、帰国後の二月下旬および四月中旬の二度にわたり、インド測量部発行の二十五万分の一トレッキング・シリーズ地図七枚、同五百万分の一山脈・水系地図一枚、およびヒマチャル・プラディッシュの五万分の一地形図(53-E、クル、シムラ地区)十五枚(53-E-14欠)が本会図書室に寄贈されました。

このうち二十五万分の一トレッキング集成図Jammu & Kashmirは、未開放地域も含まれる貴重なものです。(松田雄一)

- Trekking & Map Series(1:250,000)
- 1) Jammu & Kashmir No.1(1979)
 - 2) Jammu & Kashmir No.2(1979)
 - 3) Badarinath(1986)
 - 4) Kullu Valley(1990)
 - 5) Gangotri-Yamnotri(1991)
 - 6) Kumaun Hills(1991)
 - 7) Badari-Kedar(1991)
- Discover India Series(1:5,000,000)
- 1) Hill Ranges and Rivers(1990)
- Himachal Pradesh(1:50,000)
- (53-E Series)
- 1~15) 53-E-1~16(except E-14)

ネパール国際山岳博物館募金応募状況

表記の募金にご協力をくださった方々のご芳名を掲載し、お礼に替えさせていただきます。(敬称略)

173名 543口 2,718,000円 (6月5日現在) 累計680名/1,955口/9,785,836円

●100口 (500,000円)

藤井信己

●40口 (200,000円)

今西芳子 今西邦夫

●20口 (100,000円)

佐久間高男

●10口 (50,000円)

高橋一雄 一力英夫 村木潤次郎

日本山岳会岐阜支部

●6口 (30,000円)

宮下秀樹 吉永英明 大塚博美

●5口 (25,000円)

酒井敏明 木戸繁良 田村護 山田二郎

●4口 (20,000円)

田中政一 増田昌司 青木巖 井手隆尚 荒木信夫・(有)新潟マネジ
メント 金子宏 秋山光男 菊池文雄 尾崎徳郎 田邊隆一 増山茂 山本朋三郎 宮川良雄

●3口 (15,000円)

山崎大造 高木碕男 高柳清美 中島伊平

●2口 (10,000円)

小林康浩 井栗登 田中節子 川

田邦夫 田邊正英 松下征文 中村浩一 松井辰彌 石井勝 栗野光夫 羽鳥肇 日下部雅昭 渡辺欣次 坂井美江 望月阿香実 小谷隆一 魚本定良 中嶋正夫 岩坪五郎 岩坪吟子 中村正義 水越武 鶴野悟郎 武藤朋幸 平野眞市 三鍋久雄 宮本忠直 八木功 川合周 岸栄 野呂邦彦 吉田三智子 中村善登 法政大学体育会山岳部 三上博民 小野光比古 清水紀亨 平野武利 原田雅弘 角橋通弘 佐藤紀子 田中重輔 岡本如矢 山崎徹 山下正代 岡田謙吉 安東桂三 飯田肇 高木康雄 尾崎祐一 内野裕夫 松本雅夫 松井利夫 宮本数男 鈴木淳平 山本健一郎 篠田勝久 杉村功 松尾美貴子 斎藤裕 紀伊輝彦 石光久仁子 松井潤次 利部輝雄 鈴木松三 青木繁 唐橋宏 武田宗岳 前田清子 山崎美子 遠藤源太 日下田實 戸谷全男 保坂恵子 坪山淑子 高橋早苗 松浦輝夫 佐野貴之 杉山

イタル 佐藤芳久 山田圭一 藤野欣也 宮下広次 遠藤俊一 齊藤晋 岡田茂久 高良博人 武藤光盛 田辺恵造 大田慶子 貫田宗男 杉田博 高芝一民 松沢幸雄 橋本實 右川清夫 青木司 片山博 村田茂

●1口 (5,000円)

下沢英二 谷口義宗 岩田安生 名塚達夫 有吉毅 西川潔 伴實 本多彦一 若月昇 篠田勝行 佐藤知恵子 山田暁 山中保一 加藤義夫 田口善信 安田範明 大木淑子 岡本博三郎 岩田和夫 佐々木康之 綿引安人 長谷川章 齊藤喜一 三島秀介 藤田純江 沼田敏明 田代妙子 小嶋尚 吉川友章 齊藤直信 坂本桂 上村秀雄 大槻雅弘 堀義博 中西紀夫 安藤昌宜 中村久一 伊藤繁 杉村直樹

●その他口

秋山庸一 平野征人 中村佐千夫 塩入章夫

書籍受入報告 (1998年5月)

著者	書名	ページ・大きさ	出版元	出版年	寄贈/購入
五十嵐篤雄	飯豊道 (いいでみち) : 山の紀行とエッセイ	402pp/20cm	恒文社	1998	著者寄贈
ベルニナ山岳会(編)	BERNINA 49・50 : ベルニナ山岳会創立50周年記念号	224pp/26cm	ベルニナ山岳会	1998	発行者寄贈
黒石恒	旅の回顧 (画集)	59pp/22cm	黒石恒 (私家版)	1998	著者寄贈
渡辺正臣	富士山に魅せられて70年 : 素晴らしい山仲間と囲まれて	197pp/22cm	渡辺フミ (私家版)	1998	発行者寄贈
渡辺正臣	各地にある富士山 : 『富士山に魅せられて70年』別冊付録	70pp/21cm	渡辺フミ (私家版)	1998	発行者寄贈
前橋足利銀行経友会	さわやかな笑顔にナマステ : 前橋足利銀行経友会ネパール学校支援活動報告書	49pp/26cm	前橋足利銀行経友会	1997	発行者寄贈
串田孫一・他 (編)	剣岳 (日本の名山 No. 7)	252pp/20cm	博品社	1998	出版社寄贈
クリンチ(著) 栗原義美・吉永定雄(共訳)	ヒドンピーク初登頂 : カラコルムの秘峰8068メートル	406pp/20cm	ナカニシヤ出版	1998	訳者寄贈
松田松二	環境科学者の見たチロル	253pp/19cm	山と溪谷社	1998	出版社寄贈
中村みつを	のんびり山に陽はのぼる	174pp/21cm	山と溪谷社	1998	出版社寄贈
横山大輔 (編)	崑崙山脈7167峰登山隊報告書 : 西陣山岳会創立35周年記念誌	66pp/26cm	西陣山岳会	1998	発行者寄贈
谷野正則 (編)	中高年のための花の百名山 : 全国「花登山」魅力ガイド	146pp/27cm	主婦と生活社	1998	飯倉登喜子氏寄贈
新潟県山岳協会(編)	新潟県山岳協会創立50周年記念誌	196pp/26cm	新潟県山岳協会	1998	発行者寄贈
大山恭司	日本百名山 : 記録写真集	83pp/27cm	大山恭司 (私家版)	1998	著者寄贈
日本山岳会東海支部(編著)	山は知っている : 環太平洋一周環境調査登山の記録	189pp/26cm	マック出版	1998	編著者寄贈
平山善吉	エベレスト遙かなり	352pp/22cm	悠々社	1998	著者寄贈
東京農薬大学山岳会(編著)	TWINS(トゥインズ) : 東京農薬大学ガッシャブルムII峰1993、追悼 佐藤正倫、トゥインズ 1995 報告	181pp/27cm	東京農薬大学山岳会	1998	発行者寄贈
佐伯邦夫	剣岳渾身 : 佐伯邦夫写真集 (Bee Books)	59pp/20cm	佐伯邦夫事務所	1998	著者寄贈
古館尚樹 (編)	『岳人』別冊 : 夏山・夏だから日本アルプス&みちのくの山	210pp/30cm	中日新聞東京本社	1998	出版社寄贈
安宅夏夫、松尾順造(写真)	鎌倉文学散歩 (カラーブックス No. 851)	151pp/15cm	保育社	1993	著者寄贈
Gigi Speroni	Il Duca Degli Abruzzi	210pp/20cm	Rusconi	1991	購入
International Society for Mountain Medicine (ISMM)	第3回登山と高所環境に関する国際医学会議 Program & Abstracts <The 3rd World Congress on Mountain Medicine & High Altitude Physiology & the 18th Japanese Symposium on Mountain Medicine>	300pp/26cm	ISMM	1998	発行者寄贈

会務報告

五月理事会

日時 五月十三日(水) 十八時三十五分～二十時四十分

場所 日本山岳会会議室

「出席者」 斎藤会長、小倉、大森、竹内各副会長、吉永、田邊、伊丹、絹川、勝山、村井、飯田、増山、森、大蔵、宇田川、宮崎、坂本各理事、山口資料委員、石橋監事、平山、穴田、中川、平野、中村各常任評議員(鯉坂理事、ヒマラヤ登山行動中につき、山口資料委員の代理出席)

「委任」 熊崎理事、神崎監事、長尾常任評議員

◎議事に先立ち八～十日に、斎藤会長以下六名で中国登山協会を表敬訪問してCMA四十周年記念行事に参加、熱烈歓迎と答礼。パーティーの開催、伊丹理事よりブータン・チベット国境登山に対する打診状況の報告などが述べられた。

【審議事項】

一、助成金交付の件 吉永
大森前理事をキャップとして進められているネパール・シバプリの植林事業に対し、地球環境基金より、本年度助成金交付内定通知があった。

収支については本会財務決算項目となるので、自然保護担当理事決済事項としての運営を希望する。承認
二、秩父宮記念賞の件 竹内
二回の有識者会議と理事会を経て、総会説明後直ちに創設に当たる。

①運営委員会 有識者、三副会長、総務、財務で構成。五月二十八日打ち合わせ。

②審査委員会 自然保護、高所、科学、医療、図書、資料六委員理事に委嘱。

③事務局 審査委員出身委員会より一人と、総務委員会。十五日第一回打ち合わせ。

④その他 応募要領／推薦状は学術振興会のもを参照する。提出書類は各二部。

●推薦 委員会、支部、会員が属する学会。

●応募 個人が支部、委員会から推薦を受け応募。あるいは団体が推薦。一度応募したものは二年間有効とする。

三、評議員会の件

四月二十五日開催、総会提出議案の説明 決算報告・予算(案)・事業報告・事業(案) 秩父宮記念賞の創設・ポカラ山岳博物館の募金経過報告などの承認を受けた。了承
四、総会・支部長会議の件 (五月十六日グリーンホテル水道橋) 絹川

①総会 十三日現在で、出席申し込み、到着委任状で成立人数を超えている。

②支部長会議 代理四支部を含む全支部出席通知がきている。議題の中で、今年の年次晩餐会イベント「支部とおきの山・PART II」計画の協力依頼をする。

③総会後の懇親会に、ネパール政府参事官の出席要請があり、ポカラ山岳博物館の現況とネパール観光年の説明などの申し入れがなされた。

五、支部長交代の件

四月十九日開催の信濃支部総会で支部長等の交代があった。

支部長 山浦源太郎(会員番号四九

三〇) 総務 角田啓蔵(会員番号八二八六) 承認
六、ネパール・トレッキング計画の現況 吉永

(株)ヒマラヤ観光、(株)アトラストレック、アルパインツアーズ(株)の三社主催により、二百二十名限定(金)の九日間の日程。コース等については五月下旬までに設定。「山」六月号掲載とする。なお十六日支部長会議でも報告、説明をする。

七、名義後援要請の件

六月四～九日、上野松坂屋に「夏山相談所」開設、同時開催としてアルパイン・フォトビデオクラブ巡回

●新ハイキング選書● ●第20巻好評発売中●

一等三角点の山々

山口ゆき子/横山 隆/高柳生雄/川越はじめ/
岡村美邦共著

A5版・310頁・定価1680円(税込)掲載の山 80山

新ハイキング社の一等三角点の山シリーズの三部作「一等三角点の名山100」「一等三角点の名山と秘境」「一等三角点の山々」も発売中

※3冊とも山は重複していません

●日本山岳会選定●話題の本●8刷増刷

日本300名山ガイド

〈東日本編〉〈西日本編〉

市川静子、岡田敏夫、岡部紀正 A5版・320頁
川越はじめ、廣澤和嘉 共著 定価各1680円(税込)

※著者はすべて日本山岳会会員です

新ハイキング社 東京都北区滝野川 7-6-13

☎(03)3915-8110 振替 00130-9-146915

秩父宮記念山岳賞について

会報5月号(636号)でご紹介した「秩父宮記念山岳賞」の応募締切は8月31日です。ふるってご応募、ご推薦ください。関係資料は日本山岳会秩父宮記念山岳賞事務局へご請求ください。

写真展の展示、その後、七月上旬より滋賀県ダイニックアストロパーク天究館での開催に対して、羽田クラブ代表より文書で本会後援の要請がなされた。
承認

【委員会報告】

●青年部・宇田川

カンチェンジュンガ登山隊一九九八は全員元気で行動中。C4建設後、登頂アタックは中旬予定。

●海外連絡委員会・伊丹

①十月三日、日山協行事「登山の日」にあわせてイタリアよりW・ボナッティ氏が来日、四カ所で講演会開催の予定。

②ネパール・ポカラ山岳博物館募金の現況は、応募五百六十八名、七百四十万円。

●山岳研究所運営委員会・坂本

平成十年度企画

①ウエストン祭と焼岳登山「青年部と共催。六月六〜七日。対象は平成九年度入会者二百七十名、参加定員二十名。

②JACジュニア登山教室「指導委員会と共催。七月二十九日〜八月一日。対象はJAC会員家族の子女とその友達、小学四年生〜中学三年生、十〜十五名。

③自然エネルギー展(山研資料室) 科学委員会、資料委員会と共催。八月二〜二十二日、「人と自然の協調」

機材パネル展示、水力・ソーラー・風力発電の理解を促す。

●医療委員会・増山

第十八回日本登山医学シンポジウムおよび第三回登山と高所環境に関する国際会議の開催(五月二十一〜二十四日、参加三十二カ国、松本市)に当たり、各理事にも可能な限り出席をお願いする。

●会報編集委員会・村井

「山」六三七号に、中高年対策として、「登山一般」小倉重子「メデイカルチェック」大森薫雄「トレーニング」山本正嘉の三会員に寄稿を依頼し、特集記事を掲載する。

●図書委員会・飯田

申し入れがあり、図書室未収納図書二百十冊の寄贈を受け入れた。

●資料委員会・代理山口委員

①乾板七百枚を受け入れた。立山博物館、東京都写真美術館等に寄託予定。*十二月理事会でも複写の件で審議されたが、貴重品であり版權の帰属について、明確化を期すべきである(小倉副会長)。

②武田久吉名誉会員記念館(会津・檜枝岐)の建設に伴う展示品について、家族より問い合わせがあった。大町山岳博物館寄託で未登録のものと、所蔵品の中より一部を本会名義寄託とする等を考慮している。

■会員異動

物故

田村扇一(四三二七) 10・5・8

作見 徹(六五一三) 10・5・2

中井義博(七二八九) 10・4・15

平野清司(九四七七) 10・5・1

退会(10・5・31)

遠藤孝夫(六九三九)

島田芳文(三八七二)

岡本百登成(八四六一)

力石輝夫(八八五四)

斉藤省吾(八九〇三)

渡邊喜男(一〇六五三)

田寺俊治(一〇八〇六)

宇井敏彦(一一四六〇)

松下多佳子(一一七三五)

武保(一二三七四)

改姓

高野久子(一一八〇六)→松本久子

終身会員

保坂隆司(四六六三)

ルーム日誌

5月

3日 会報編集委員会

7日 常務理事会 山学研

8日 フォトビデオクラブ

11日 総務委員会 アルパインスキークラブ

12日 二火会 アルパインスケッチクラブ

13日 理事会 95同期会

14日 青年部 集委会

15日 秩父宮記念賞委員会

16日 岩橋写真集

18日 総務委員会 資料委員会 図書委員会

19日 アルパインスケッチクラブ

20日 百年史委員会 フィルムビデオ委員会

21日 三火会 データバンク研究会

22日 山研委員会 95同期会

23日 高所登山委員会 科学委員会

24日 学生部講演会

25日 青年部 自然保護委員会

26日 データバンク研究会 山岳編集委員会

27日 自然保護委員会 山げらの会

28日 学生部 アルパインスキークラブ(幹事会)

秩父宮記念賞委員会 集委会

5月来室者50名

INFORMATION



◆全国支部懇談会開催

主管秋田支部

初秋の男鹿市で平成十年度の全国支部懇談会を開催します。二日目の懇親登山は男鹿の「お山がけ」。ふるってご参加ください。

日程

九月十九日(出) 秋田県男鹿市門前

旅館「磯乃家」で懇親会

九月二十日(回) 男鹿三山縦走(お山

がけ) 真山(五七メートル) —

— 本山(七二五メートル) —

毛無山(六七七メートル)

※登山後宿舎に戻り解散。

費用 一万三千元(宿泊代、懇親会

費、連絡費など)

申込 ハガキに住所、氏名、性別、

年齢、電話、会員番号、所属

(本部、支部名) 男鹿半島ま

での交通手段(①秋田空港か

らリムジンバスで秋田駅、駅

— JR男鹿線・男鹿駅—専用

送迎バス ②車は秋田自動車

道・秋田南インター国道一三
号—海岸道路—男鹿市 ③高
速バスは秋田駅下車—後は①
により男鹿駅)を明記。

宛先 〒〇一〇〇九〇五

秋田市保戸野中町七一四

岡田光行 日本山岳会秋田支

部長宛

締切 八月十日 定員百二十名

※申込者には詳細案内を送付します。

◆JACジュニア登山教室

山研運営委員会

上高地の山研を中心に、子供たち
に自然観察と登山を体験してもらう
三泊四日の教室です。自分たちで食
事も作ります。

日程 八月二十四日(月)〜二十七日(木)

対象 会員の子女とその友達(男女

小学四年生〜中学三年生まで

内容 自然観察教室、登山

授業料 一万七千円程度(上高地山

研集合・解散 宿泊費、食費を

含む)

申込締切 八月十日 定員十〜十五

名(詳細要項をご希望の方はハ

ガキで事務局気付「山研ジュニ

アの係」まで)

◆山研で自然エネルギー展を開催

共催/科学委員会・資料

委員会・山研運営委員会

「人と自然の協調」をテーマにした

特別展です。ぜひご覧ください。

期間 八月二日(日)〜二十二日(出)

会場 上高地山岳研究所資料室

◆第七回懇親山行・富士山へ

日時 九月二十六日(出)〜二十七日(回)

場所 富士山(須走口七合目太陽

館に宿泊予定)

集合 九月二十六日十時JR御殿場

駅改札口

費用 七千円(一泊二食交通費別)

申込 九月十五日までに大貫金吾へ

TEL〇四八—四七二—二三三九

※申込者には詳細案内を郵送します。

天候によっては山麓散策に変更。

※第六回丹沢山行(五月実施)の反

省会をかねます。

◆秋の山行案内

ジャック93会

紅葉の泥湯温泉から高松岳へ。

日時 九月二十六日(出)、二十七日(回)

場所 山伏岳・高松岳・小安岳(栗

駒国定公園内)

泥湯温泉は奥羽本線湯沢駅か

ら羽越バスで約一時間

集合 二十六日十七時 泥湯温泉

費用 一万三千元程度(宿泊費他)

申込 住所、氏名、年齢、会員番号

を明記し、返信用封筒または

Eメールで、花澤廣巳宛(世

田谷区祖師谷一—一七—八

TEL・〇三—三四八三—〇九二七

@E mail: HANA 013252

@swan.Sanyo.co.jp

締切 八月末日

※申込者には詳細案内を送付します。

◆自宅でもできる自主トレーニング講

座 山げらの会

「楽に山に登りましょう。筋肉痛よ

さようなら!」というテーマでチュ

ープやダンベルを使ったストレッチ

・筋トレを月一回行っています。山

げらメンバーでない会員の参加も大

歓迎です。

日時 九月一日(火)

十月六日(火)

十一月九日(月)

十二月九日(木)

講師 三井吉由江

会場 日本山岳会一〇四号室

申込 TEL・FAX〇三—三四五一—五三

八八 三井まで

■訂正

五月号(六三六号)一四ページ一段

六行目の「温暖帯」は「暖温帯」の

誤りでした。お詫びして訂正します。

日本山岳会会報 山 638 号

1998年(平成10年)7月20日発行

発行所 社団法人日本山岳会

〒102-0081

東京都千代田区四番町5-4

サンビューハイツ四番町

TEL 東京 (03)3261-4433

FAX 東京 (03)3261-4441

発行者 斎藤惇生

編集人 村井 葵

印刷 株式会社 双陽社